

カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表のことで、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかが示しています。

このカリキュラムマップにより、学修内容の順次性や科目間の関連性が一目でわかり、自らの学修内容を容易に把握することができます。

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

教養教育科目 カリキュラムマップ

①教養部における「人材の養成・教育研究上の目的」に則り、教養教育のカリキュラムは、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な知識と価値観および深い洞察力を涵養する「リベラル・アーツの修得」を柱とする。②「基礎学力の育成」においては、情報収集力や言語表現力などの基礎学習力を培い、さらに課題発見力、論理的思考力、問題解決力、自己表現力を育成するために多彩な教育科目を展開する。③「リベラル・アーツの修得」においては、新たな価値の創造と知の多様性に対応できる人材の養成を目指して、人文科学・社会科学・自然科学の広範な領域、及び学際的なテーマを網羅した多種多様な科目を開講する。

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバ	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
宗教学Ⅰ B111-113-01	「建学の精神」を学び、また、多様な宗教の見方・捉え方（分類法など）や、世界各地の宗教の概要・歴史を学習する。	宗教を客観的に学ぶことで高い倫理性を持った人間性を獲得し、また、世界各地の宗教を学ぶことで多様な文化・価値観を理解する。	◎	◎	◎	○		○	○	○	
宗教学Ⅱ B111-113-02	インドで生まれた仏教・禅の教え（世界観・価値観）の基本を学び、世界各地へ伝わった歴史を学ぶ。	仏教の智慧を学ぶことで、課題発見力や問題解決力を養い、また、慈悲を学ぶことで、他者との協調性を養い、価値観の多様化した現代においても力強く生きられる柔軟性を得る。	◎	◎	◎	○		○	○	○	
教養セミナー 「学問の発見」Ⅰ B132-841-01	教員の専門性を生かしながら、学生の学びへの姿勢を喚起させる。そのため、愛知学院大学教養部が編纂した教養セミナーハンドブック第Ⅰ部『大学で学ぶために』を共通テキストとして使用する。	リベラル・アーツへの目覚めを喚起し、高校までの受動的な学習形態から、大学での能動的な学習形態へ導き、大学で学ぶための心構えを意識させることを目標とする。	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
教養セミナー 「学問の発見」Ⅱ B132-841-02	教員の専門性を生かしながら、学生の学びへの姿勢を喚起させる。そのため、愛知学院大学教養部が編纂した教養セミナーハンドブック第Ⅰ部『大学で学ぶために』を共通テキストとして使用する。	リベラル・アーツへの目覚めを喚起し、高校までの受動的な学習形態から、大学での能動的な学習形態へ導き、大学で学ぶための心構えを意識させることを目標とする。	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
教養セミナー 「学問の発見」Ⅲ B232-841-03	「教養セミナーⅠ・Ⅱ」の発展系の授業として「学問の発見」をより深く考える科目であり、各担当教員の専門性を活かした形での授業として少人数のセミナー形式で授業が行われる。	各担当教員による幅広い分野の専門性を活かした科目として、学問に対する好奇心や探究心などをより一層高めることを目標とする。	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
教養セミナー 「学問の発見」Ⅳ B232-841-04	「教養セミナーⅠ・Ⅱ」の発展系の授業として「学問の発見」をより深く考える科目であり、各担当教員の専門性を活かした形での授業として少人数のセミナー形式で授業が行われる。	各担当教員による幅広い分野の専門性を活かした科目として、学問に対する好奇心や探究心などをより一層高めることを目標とする。	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
心理学Ⅰ B131-285-01	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心を向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。	○	○	○			◎	○	◎	○
心理学Ⅱ B131-285-02	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心を向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。	○	○	○			◎	○	◎	○

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
哲学Ⅰ B131-111-01	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。	○	△	△		○	◎	◎	△	
哲学Ⅱ B131-111-02	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。	○	△	△		○	◎	◎	△	
論理学Ⅰ B131-111-11	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。					○		◎	△	
論理学Ⅱ B131-111-12	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。					○		◎	△	
文学Ⅰ B131-135-01	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。		◎		△	○	○	◎		
文学Ⅱ B131-135-02	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。		◎		△	○	○	◎		
美術Ⅰ B131-116-01	美術の歴史、人物、環境等を通し現代社会の美術の見方、考え方を学び美術の基本姿勢を修得させていく。	美術の基本的な姿勢や見方を修得する。個々の美術観を築き表現法を見出ししていく。	◎	○	○	△	○	○	○	△	◎
美術Ⅱ B131-116-02	美術の基本理念に基づき多様に広がる美術事情を探り自己の美意識を広げ表現力を高めていく。	美術の理念を深め自己の造形に表現力を加え、美術の基礎の確立を計る。	◎	○	○	△	○	○	○	△	◎
法学Ⅰ B131-211-01	法学全般の基礎、及び憲法の基礎について講義する。	法学全般に通じる基本原理、及び憲法の基本原理を理解する。	○	△		○	○	○	◎	◎	
法学Ⅱ B131-211-02	民法の基礎について講義する。	民法の基本原理を理解する。	○	△		○	○	○	◎	◎	
政治学Ⅰ B131-222-01	民主主義・自由主義などの原理、執政制度・選挙制度などの政治制度を学ぶ。	政治の基本的原理や制度を理解する。	○	○		○	○	○	◎	◎	
政治学Ⅱ B131-222-02	日米英独仏など各国の政治を比較して学ぶ。国際政治の仕組みについて学ぶ。	各国政治および国際政治の基本を理解する。	○	○		○	○	○	◎	◎	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
経済学Ⅰ B131-231-01	経済学の基礎概念をミクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	ミクロ経済学の基本的な概念を理解し、ミクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。						○	◎	◎	
経済学Ⅱ B131-231-02	経済学の基礎概念をマクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	マクロ経済学の基本的な概念を理解し、マクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。						○	◎	◎	
社会学Ⅰ B131-261-01	本講義は、具体例を挙げながら、社会学が考えてきたこと、明らかにしてきたことを確認し、社会学の概念や方法を理解していきます。また、それらの知識を用いて、現代社会の諸課題についても考えます。	社会学の「問い」、「概念」、「方法」を理解すること。そして、社会学的思考を用いて、自ら現代社会の諸課題の様相について説明できるようになること。	○	◎		△		○	◎	○	
社会学Ⅱ B131-261-02	本講義は、社会階層、文化集団、コミュニティ等を取り上げ、社会学的な視点からそれらの集団の特徴を理解していきます。そして各集団と現代社会の諸課題の関連についても考えていきます。	各集団の特徴を理解すること。そして、現代社会の諸課題が各集団のなかでなぜ発生し、どのように顕在化していくのかについて説明できるようになること。	○	◎		△		○	◎	○	
教育学Ⅰ B131-271-01	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○			○		◎	◎	○	○
教育学Ⅱ B131-271-02	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○			○		◎	◎	○	○
歴史学Ⅰ B131-161-01	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	○
歴史学Ⅱ B131-161-02	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	○
地理学Ⅰ B131-181-01	地理学の基礎的な知識を、国内外の社会の中にみられる具体的な実例を挙げながら紹介する。社会や自然を構成する多様な要素を取り上げ、それらの相互関係や、分布の差異を示すことで、地理学的なもののとらえ方を身に着ける。	社会の中にみられる諸現象を地理学的な観点から説明することができる。世界あるいは日本の中にみられる多様性と地域性について理解することができる。	△	◎	○	○		○	◎	○	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
地理学Ⅱ B131-181-02	地理学が扱う多様な課題の中から特定のものを取り上げ、その問題を関連する事象とともに追究する。このことによって、取り上げる課題についての理解を深めるとともに、地理学的なもののとらえ方についても深化させる。	取り上げる地理学的課題についての基礎的な知識事項を述べることができる。取り上げる地理学的課題を通じて、世界・日本の社会・自然のあり方について、論理的な考察が行えるようになる。	△	◎	○	○		○	◎	○	
数学Ⅰ B131-323-01	数学の問題を解くことを通して、数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。						○	◎	◎	△
数学Ⅱ B131-323-02	数学の問題を解くことを通して、より進んだ数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な、より進んだ数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。						○	◎	◎	△
統計学Ⅰ B131-603-01	統計の問題を解くことを通して、統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	
統計学Ⅱ B131-603-02	統計の問題を解くことを通して、より進んだ統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ、より進んだ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	
物理学Ⅰ B131-420-01	歴史を辿ったり、身近な現象を題材にしたりしながら、生活や社会に密接に関わっている『物理』を学ぶ。	なぜ？という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。						△	◎	○	
物理学Ⅱ B131-420-02	歴史を辿ったり、身近な現象を題材にしたりしながら、生活や社会に密接に関わっている『物理』を学ぶ。	なぜ？という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。						△	◎	○	
化学Ⅰ (心理学科・健康科学科) B131-420-11	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。						△	◎	○	
化学Ⅰ (健康栄養学科) B111-420-11	健康栄養学科の化学系科目を理解するための基礎学習	原子の構造、濃度、酸塩基等が理解できること。						△	◎	○	
化学Ⅱ B131-420-12	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。						△	◎	○	
生物学Ⅰ (心理学科・健康科学科) B131-420-21	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。				△		○	◎	◎	
生物学Ⅰ (健康栄養学科) B111-420-21	われわれヒトを含む動物の体のしくみを分子レベル、細胞レベル、全身(生体システム)レベルで学び、生命活動の基本原理と様々な生物学的基本概念を理解する。	単に生物学の基礎知識を身に付けるだけでなく、得た知識を使って自分や他の生物の体内で起きていることを人に説明できるようになる。				△		○	◎	◎	
生物学Ⅱ B131-420-22	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。				△		○	◎	◎	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
情報科学Ⅰ (心理学科・健康科学科) B131-601-01	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネット ワークの知識を習得する。	社会生活に役立つコンピュータとネットワークの知識と、 その倫理的問題点の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	△
情報科学Ⅰ (健康栄養学科) B111-601-01	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネット ワークの知識を習得する。	社会生活に役立つコンピュータとネットワークの知識と、 その倫理的問題点の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	△
情報科学Ⅱ B131-601-02	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネット ワークのより進んだ知識を習得する。	社会生活に役立つより進んだコンピュータとネットワー クの知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	△
仏教と現代社会Ⅰ B231-112-01	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題 を考える力を育てる。	○	◎	◎	○		○	○	○	○
仏教と現代社会Ⅱ B231-112-02	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題 を考える力を育てる。	○	◎	◎	○		○	○	○	○
禅と人間Ⅰ B231-112-11	禅の概要および禅宗の特徴を概説し、禅語（公案）を通じ て禅の思想を解説するとともに、坐禅の実習によって禅の 修行を体感する。	坐禅や公案の学習などの禅の修行生活の重要な要素を通じ て、禅の本質を理解する。	◎	○			△		○		
禅と人間Ⅱ B231-112-12	中国および日本における禅宗の歴史や思想を概説し、禅の 影響のもと成立した茶道・絵画・建築・陶磁器・書などの 日本独自文化を解説する。	禅と日本文化との関係を具体的に理解し、禅によって培わ れた日本独自の美意識や感性を体得する。	○	◎							△
生命に関する諸問題Ⅰ B231-118-01	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、 自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプ ローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな 課題を見い出したりする力をつける。自分なりの「生命 観」・「人生観」・「死生観」を築く。	◎	○		○		◎	○	○	
生命に関する諸問題Ⅱ B231-118-02	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、 自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプ ローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな 課題を見い出したりする力をつける。自分なりの「生命 観」・「人生観」・「死生観」を築く。	◎	○		○		◎	○	○	
人間行動の理解Ⅰ B231-285-01	心理学で扱う理論や事象は実験や調査で得られたデータに 基づいている。本講義では、実際に実験を行い、仮説検証 の考え方からデータの収集方法、結果の解釈に至るまで、 心理学の基本的な方法論について理解を深める。	心の仕組みや働きを明らかにするための様々な方法論を理 解したうえで、科学的な手続きと正確なデータ収集の重要 性を認識し、さらにそれらをまとめて論理的な報告書の作 成ができるようになること。	○	○	○	◎		◎	○	○	
人間行動の理解Ⅱ B231-285-02	フロイトの精神分析の口語版といわれる「交流分析」の理 論と実践について学ぶ。交流分析は、パーソナリティ理論 やコミュニケーション理論を含む心理療法のひとつであ り、自己洞察を繰り返すことで、より良い人間関係と自己 の生き方を築くことを目指す。	自己理解と他者理解を深め、よりよいコミュニケーション と自己の問題点の把握と改善へつなげること。	○	○	◎			○	○	◎	○
人間の尊厳と平等Ⅰ B231-261-01	本授業では、これまでに人間社会が形成してきた人権につ いて、様々な歴史的事例や条文などの学びを通して、人権 の基礎を習得する。	人権の成立過程や現代における課題を学び、一人一人の人 間性を尊重し、他者と協調できるようになる。また、差別 について批判的精神を養う。	◎	○	◎	○		○	○	○	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
人間の尊厳と平等Ⅱ B231-261-02	本授業では、社会福祉の成立過程を学びながら、「福祉国家」や「社会福祉事業」への理解を深め、社会福祉の基礎を習得する。	社会福祉の学びを通して、一人一人の人間性を尊重し、多様な価値観を理解できるようになる。そして、自ら社会貢献が積極的に可能になることを目指す。	○	◎	◎	○		○	○	○	○
日本の文化と社会Ⅰ B231-162-01	東海地方は戦国末から近世初期にかけての城郭が多い。その遺構から時代の変化、政治・社会構造の転換を複合的に解析する。	科学的な探究の精神に基づいて、歴史的な事例を求め、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。		◎		△	○	○	◎		
日本の文化と社会Ⅱ B231-162-02	日本における総力戦の指導者である永田鉄山の構想を通して、昭和陸軍の軌跡を辿る。	科学的な探究の精神に基づいて、歴史的な事例を求め、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。		◎		△	○	○	◎		
アジアの文化と社会Ⅰ B231-163-01	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	○
アジアの文化と社会Ⅱ B231-163-02	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	○
ヨーロッパの文化と社会Ⅰ B231-165-01	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	○	◎		○		◎	○	○	
ヨーロッパの文化と社会Ⅱ B231-165-02	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	○	◎		○		◎	○	○	
英語圏の文化と社会Ⅰ B231-804-01	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解できる。		◎			◎				
英語圏の文化と社会Ⅱ B231-804-02	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解して説明できる。		◎			◎				
人間と環境Ⅰ B231-646-01	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。		○		○		◎	○	◎	
人間と環境Ⅱ B231-646-02	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。		○		○		◎	○	◎	
情報と社会Ⅰ B231-622-01	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。		○		◎		○	○	◎	
情報と社会Ⅱ B231-622-02	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。		○		◎		○	○	◎	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
産業と科学Ⅰ B231-118-01	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。				○		○	◎	◎	
産業と科学Ⅱ B231-118-02	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。				○		○	◎	◎	
ソフトウェア概論Ⅰ B231-605-01	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、コンピュータの多様な使い方を習得する。	コンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。						○	◎	◎	△
ソフトウェア概論Ⅱ B231-605-02	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、より進んだコンピュータの多様な使い方を習得する。	より進んだコンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。						○	◎	◎	△
健康の科学 B231-594-01	健康や病気を理解するための基礎知識、とくに生活習慣との関わりや疾病予防の重要性について解説する。	健康的な生活を送るための基礎知識を身につけ、日常生活の中で実践できるようになることを目的とする。			△	△		○	○	◎	
英語Ⅰa B114-141-01	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	基礎的な英語表現の聞き取りと基礎的な会話表現ができる。		○	○		◎				○
英語Ⅱa B114-141-02	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	少し発展的な英語表現の聞き取りと会話表現ができる。		○	○		◎				○
英語Ⅰb B114-141-03	英語の読解を中心とした総合演習	基礎的な英文を読んで内容が理解できる。		○		○	◎		○		
英語Ⅱb B114-141-04	英語の読解を中心とした総合演習	少し発展的な英文を読んで内容が理解できる。		○		○	◎		○		
英語Ⅰc（心理学科） B214-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる。		○			◎		○		○
英語Ⅰc（健康科学科） B114-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる。		○			◎		○		○
英語Ⅰc（健康栄養学科） B134-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる。		○			◎		○		○
英語Ⅱc（心理学科） B214-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる。		○			◎		○		○
英語Ⅱc（健康科学科） B114-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる。		○			◎		○		○
英語Ⅱc（健康栄養学科） B134-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる。		○			◎		○		○
ドイツ語Ⅰ B114-145-01	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		◎			◎		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
ドイツ語Ⅱ B114-145-02	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		◎			◎		○		○
中国語Ⅰ B114-147-01	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。		◎			◎		○		○
中国語Ⅱ B114-147-02	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。		◎			◎		○		○
フランス語Ⅰ B114-146-01	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅱ B114-146-02	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。		◎		○	◎		○		○
韓国語Ⅰ B114-148-01	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、それを通じて朝鮮半島の歴史、社会、文化、思想について理解を深め、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎		○	◎		○		○
韓国語Ⅱ B114-148-02	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、それを通じて朝鮮半島の歴史、社会、文化、思想について理解を深め、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎		○	◎		○		○
ドイツ文化事情 B124-145-61	ドイツ語圏の国々の思想・文化・社会の探究	「ドイツ」から今後の日本社会に優位な考え方を学び取る。		◎		○		○			
中国文化事情 B124-147-61	映像等を用い、中国の歴史、地理、社会等各方面から、中国語の背後にある中国文化の様々な側面を学び、多様な文化に対する理解を深める。	中国の社会や伝統文化に対する知識を増やし、より広い視野を持って、多様な文化、価値観が理解できるようなることを目指す。		◎		○		○			
フランス文化事情 B124-146-61	フランス人の物の考え方や、習慣、歴史、社会制度などを習得する。異文化理解が単一民族の日本人には重要であることを認識する。	個人の自由を重んじるフランス人の国民性を理解し、それが日常生活や社会制度の中で、どのように機能しているかを考察を深める。		◎		○		◎	○	○	
韓国文化事情 B124-148-61	様々な文献・視聴覚資料を活用し、韓国・朝鮮の文化・社会・歴史などについて学ぶ。単なる知識の伝達ではなく、日本との比較などや、様々な観点からの観察・分析、「韓国文化」の全般について正しく理解していく。	日常の様々な事柄について客観的な立場から観察・分析力を身につけることができる。また、日韓の文化比較を行い様々な意見や情報交換によって、自分の意見を表明する積極性と論理性を高めることができる。		◎	○	○	○		◎		○

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
日本語Ⅰa B114-139-01	高度な文法力や読解力を身につけることを目的に論理的な文章を読む。	論理的な文章が読めるようになる。また、教材を通して日本社会への理解を深めることができる。					◎		◎		○
日本語Ⅱa B114-139-02	読解力を向上させるために、論理的な文章だけでなく、エッセイなども取り上げて読む。	様々なタイプの文章を、一人で読めるようになる。また、内容に関して意見や感想をまとめることができる。					◎		◎		○
日本語Ⅰb B114-139-03	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	留学生活に必要な聴解力・会話力を身につけ、わかりやすい発表ができるようになる。				○	◎		○		◎
日本語Ⅱb B114-139-04	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	日本社会で起きている話題について聴き取れ、資料を基に論理的に意見が述べられるようになる。				○	◎		○		◎
日本語Ⅰc B114-139-05	論理的な文章をわかりやすく書くための基礎的な技法を学ぶ。	事実と自分の考えとを書き分ける力、資料に基づいて自分の考えを書き進める力などを身につけることができる。					◎		○	○	◎
日本語Ⅱc B114-139-06	関心のあるテーマについて問題を見出し、資料を用いてその答えをレポートとしてまとめる。	レポートを書くことを通して、読み・書きの高度な日本語力を身につけることができる。				○	◎	○	◎	○	○
日本語Ⅰd B214-139-07	意見文を読み、自分の意見を述べたり、内容を要約したりする。	社会で問題になっている様々な問題について、自分の考えをわかりやすく述べることができる。		○			◎		○		◎
日本語Ⅱd B214-139-08	ディベートやスピーチ学習などを通して、まとまりのある内容を的確に伝える方法を学ぶ。	自分の考えをわかりやすく伝えることができる。		○	○	○	◎	○	○	○	◎
日本語Ⅰe B214-139-09	「食」をメインテーマに課題を設定し、資料を集め、まとめて発表する。	高度な日本語力およびプレゼンテーション能力を身につけることができる。		○		○	◎	◎	○	○	○
日本語Ⅱe B214-139-10	日本の文化や社会に関するテーマについて、課題を設定し、調べて発表する。	高度な日本語力およびプレゼンテーション能力を身につけることができる。		○		○	◎	◎	○	○	○
英会話Ⅰ B134-141-11	外国人教員による英会話演習	簡単な英会話で自己表現ができる。		○	○		◎				○
英会話Ⅱ B134-141-12	外国人教員による英会話演習	少し発展的な内容の英会話で自己表現ができる。		○	○		◎				○
英会話Ⅲ B234-141-21	外国人教員による発展的英会話演習	日常的な内容の英会話で自己表現ができる。		○	○		◎		○		○
英会話Ⅳ B234-141-22	外国人教員による発展的英会話演習	発展的な様々な内容の英会話で自己表現ができる。		○	○		◎		○		○
メディア英語Ⅰ B134-141-17	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで基本的な表現が理解できる。		○			◎		○		
メディア英語Ⅱ B134-141-18	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで少し発展的な表現が理解できる。		○			◎		○		
メディア英語Ⅲ B234-141-27	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで多くの表現をそのまま理解できる。		○			◎		○		

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
メディア英語Ⅳ B234-141-28	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで発展的な内容がそのまま理解できる。		○			◎		○		
英語表現法Ⅰ B134-141-15	英作文や会話などの英語による自己表現演習	基礎的な英語を使って自己表現ができる。		○			◎		○	○	
英語表現法Ⅱ B134-141-16	英作文や会話などの英語による自己表現演習	少し発展的な英語を使って自己表現ができる。		○			◎		○	○	
英語表現法Ⅲ B234-141-25	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。		○			◎		○	○	
英語表現法Ⅳ B234-141-26	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	少し発展的な英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。		○			◎		○	○	
英語読解法Ⅰ B134-141-13	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で様々な英文の内容が理解できる。		○		○	◎		○		
英語読解法Ⅱ B134-141-14	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で少し発展的な英文の内容が理解できる。		○		○	◎		○		
英語読解法Ⅲ B234-141-23	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な英文の内容が理解できる。		○		○	◎		○		
英語読解法Ⅳ B234-141-24	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な発展的な英文の内容が理解できる。		○		○	◎		○		
実践英語Ⅰ B134-141-31	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で基礎的な問題の解答ができる。					◎		○		
実践英語Ⅱ B134-141-32	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で少し発展的な問題の解答ができる。					◎		○		
実践英語Ⅲ B234-141-41	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で発展的な問題の解答ができる。					◎		○		
実践英語Ⅳ B234-141-42	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で少し高度な問題の解答ができる。					◎		○		
ドイツ語Ⅰ（基礎） B134-145-11	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		◎			◎		○	○	
ドイツ語Ⅱ（基礎） B134-145-12	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		◎			◎		○	○	
ドイツ語Ⅲ（読解） B234-145-21	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化		◎			◎		○	○	
ドイツ語Ⅳ（読解） B234-145-22	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化		◎			◎		○	○	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
ドイツ語Ⅲ（表現） B234-145-31	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力（作文力）強化		◎			◎		○		○
ドイツ語Ⅳ（表現） B234-145-32	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力（作文力）強化		◎			◎		○		○
ドイツ語Ⅲ（総合） B234-145-41	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化		◎			◎		○		○
ドイツ語Ⅳ（総合） B234-145-42	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化		◎			◎		○		○
ドイツ語会話Ⅰ B234-145-51	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成		◎	○		◎		○		○
ドイツ語会話Ⅱ B234-145-52	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成		◎	○		◎		○		○
中国語Ⅰ（基礎） B134-147-11	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。		◎			◎		○		○
中国語Ⅱ（基礎） B134-147-12	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。		◎			◎		○		○
中国語Ⅲ（読解） B234-147-21	1年次に習得した中国語を基礎に、簡単な文章を読むことによって中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の読解力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
中国語Ⅳ（読解） B234-147-22	中国語Ⅲ（読解）を受けて、様々な文章を読むことによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の読解力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
中国語Ⅲ（表現） B234-147-31	1年次に習得した中国語を基礎に、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の表現力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。		◎			◎		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
中国語Ⅳ（表現） B234-147-32	中国語Ⅲ（読解）を受けて、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の表現力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
中国語Ⅲ（総合） B234-147-41	1年次に習得した中国語を基礎に、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、常用語を身につけ、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の運用能力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 2級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
中国語Ⅳ（総合） B234-147-42	中国語Ⅲ（総合）を受けて、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、使える常用語を増やし、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
中国語会話Ⅰ B234-147-51	発音の練習を重視し、ペアワークによる会話練習を行い、中国語の会話力を向上させる。併せて、作文と翻訳の練習も行い、中国語の総合的な運用能力を高める。	1年次で学んだ中国語の発音をより正確なものにし、あいさつなどの簡単な言葉から日常用いる初歩的な会話ができるようにする。中国政府公認の中国語検定試験HSK 2級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
中国語会話Ⅱ B234-147-52	中国語会話Ⅰを受け、引き続き発音練習を重視し、ペアワークによる会話をほぼ毎回行って、会話力をより向上させる。併せて作文と翻訳の練習にも力を入れ、中国語の総合的な運用能力を高める。	中国語をより正確に発音できるようにし、より多くのことを表現できるよう会話力を高める。会話力と同時に、作文能力や読解力も向上させ、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		◎			◎		○		○
フランス語Ⅰ（基礎） B134-146-11	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅱ（基礎） B134-146-12	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅲ（読解） B234-146-21	フランス語の会話文や比較的阅读しやすい文学作品の文章を訳読し、その中の基本的な表現を暗記する。	テキストの各章のテーマにそって、登場人物による会話の機微を捉える。フランス語独特の言い回しに注意を払う。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅳ（読解） B234-146-22	会話文の中で描かれる日常生活のユーモアを読み解く。人生の指針となるような文章は、暗記して覚える。	会話文の登場人物になったつもりで、情感をこめて文章を音読する。共感を覚えた表現は、反復して忘れないようにする。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅲ（表現） B234-146-31	フランス語の会話文を読みながら、その口語表現が持っている微妙なニュアンスを読み取る。使用頻度の高い文は暗記する。	フランス語の会話文の中にちりばめられている、エスプリの効いた表現を覚え、自分の人生に当てはめてみる。		◎		○	◎		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
フランス語Ⅳ（表現） B234-146-32	フランス語の文学作品が描きだす人間感情の機微を読み取るようにする。感動した文は、暗記して心に留める。	文学作品の中に出てくる、感動的で重要な意味合いの文を、何度も反復しながら味読する。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅲ（総合） B234-146-41	短文の反復や言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の表現を確実に身につける。	フランスで生活するつもりになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、フランス語会話に集中する。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅳ（総合） B234-146-42	練習問題による言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の構造を確実に身につける。	フランス語の基本的な例文を覚えると同時に、日本語からフランス語への言い換えも行えるようにする。		◎		○	◎		○		○
フランス語会話Ⅰ B234-146-51	フランス語の発音の仕方、身振り、手振りなどの動作、顔の表情などを、フランス人自身から直に学ぶ。	フランス人の発音、表情、動作などを、素直に反復することから始めて、外国人と対話する楽しみを知る。		◎		○	◎		○		○
フランス語会話Ⅱ B234-146-52	テキストの意味を理解するだけでなく、片言の語彙であっても、自分からフランス語を口に出して言ってみる。	進んで教師にフランス語で話しかけるようにする。文法を気にするよりも、身振りや表情を交えてコミュニケーションを取る。		◎		○	◎		○		○
韓国語Ⅰ（基礎） B134-148-11	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅱ（基礎） B134-148-12	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅲ（読解） B234-148-21	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象にし、レベルアップした基礎文法を学ぶ。コミュニケーションの訓練とともに、文法と構文の理解、表現力を身につける。また、旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。	韓国語の基礎文法を踏まえ、より豊かな基礎会話を養うことを目標にする。徐々に語彙・文法項目を増やしていき、韓国語で書かれた文章に対する理解力を高める。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅳ（読解） B234-148-22	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習は、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。	中級レベルの文法や語彙を学び、韓国語としてより自然で円滑なコミュニケーションができるようにする。より豊かな言語表現力を養い、韓国語文章に対する「読む・書く」能力の上達を目標にする。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅲ（表現） B234-148-31	文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基本文の作り方を練習する。そのために、基本文法と単語の学習を充実に行う。これに基づいて、実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。		◎	○		◎		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
韓国語Ⅳ（表現） B234-148-32	韓国語の文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基礎的な文の作り方を練習する。そのために、基本文法と基礎単語の学習を充実に行う。実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅲ（総合） B234-148-41	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象にし、ハングル検定試験5級に合格するために必要な発音の仕組み、基本文法などを学習していく。文法事項や語句、日常会話文等を繰り返し練習し、ハングル検定試験5級合格に必要な基本的な能力を身につける。	基本文法については韓国語Ⅰ・Ⅱで学習した復習から始め、ハングル検定試験5級合格のために必要な発音と文法を学び、自ら学習できるようにする。基本文法と語句、日常会話文などの反復学習を通して習得していく。また練習問題と課題を通して、その定着と更なる応用発展を図る。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅳ（総合） B234-148-42	ハングル検定試験5級に合格するため、基本文法、語句、日常会話文などを学習する。また11月に実施されるハングル検定試験に向けて実際の過去問を用いて練習する。適宜、試験に必要な発音や文法、語彙に関する解説を行う。	ハングル検定試験5級に合格する、あるいは5級に挑戦できる能力を身につけることを目標とする。すでに5級を取得した学生にとっても、次のステップアップにつながる足場を固める場となることを目標とする。		◎	○		◎		○		○
韓国語会話Ⅰ B234-148-51	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	ハングルの読み書きが確実にできるようにする。 基礎的な文法を身につけ、あいさつ、自己紹介、身の回りのことについて自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようにする。		◎	○		◎		○		○
韓国語会話Ⅱ B234-148-52	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	約700個の単語をもとに、初級レベルに必要な会話のスキルを身につけるようにする。その上で日本語とは異なる韓国語特有の会話の仕方を学習し、その背景にある文化についても考察できるようにする。		◎	○		◎		○		○
スポーツ科学Ⅰ （心理学科・健康栄養学科） B115-592-01	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅱ （心理学科・健康栄養学科） B115-592-02	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅰ （健康科学科） B135-592-01	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP1	DP2		DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			DP1-1	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP3-5	DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
スポーツ科学Ⅱ (健康科学科) B135-592-02	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の 楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲 得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人 間性を高めていく。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅲ B235-592-03	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生 涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベ ルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」 を目標とする。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅳ B235-592-04	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生 涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベ ルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」 を目標とする。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎

◎・・・教育目標達成のために、特に重要な事項
○・・・教育目標達成のために、重要な事項
△・・・教育目標達成のために、望ましい事項

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
心理学概論Ⅰ・Ⅱ Y111-285-01 Y111-285-02	心理学に関する知識を広く学習し、心理学の専門科目を学習する上での基礎を作る。	・心理学に関する幅広い知識が身につけられる。 ・関心のある心理学専門分野を見つけることができる。	◎		○		◎		△	
心理学統計法Ⅰ・Ⅱ Y211-285-03 Y211-285-04	心理学実験の結果や心理検査・心理尺度による調査結果の統計的分析の基礎的知識を学ぶ。	・平均、分散などの基礎的概念を理解し計算方法を学ぶことができる。 ・仮説検定の考え方を理解することができる。 ・平均の差の検定など基礎的検定を理解し計算方法を身につけることができる。	◎		◎	◎	△	△	○	○
心理学研究法Ⅰ・Ⅱ Y311-285-05 Y311-285-06	科学としての心理学を理解し、方法論の基礎的概念(実験法や調査法など)と具体的方法を学習する。	・春学期は主として統計的検定の基礎的概念を学び、調査の具体的手続きを理解できるようになる。 ・秋学期は主として実験法の具体的な手順を理解し、さらに、臨床心理学的アプローチの具体的方法について説明できるようになる。 ・質問紙調査法と分析結果の検討方法や考察方法を理解させる。	◎		◎	○	△	△	○	○
スタートアップ心理学 a・b Y131-841-01 Y131-841-02	心理学各教員の専門性を活かした授業を受講することにより、心理学の面白さを知り心理学の探求意欲を高める。	・さまざまな心理学の特徴を理解しそれらの専門性について理解できるようになる。 ・具体的な心理学分野に興味を抱くことができるようになる。	◎	△	△	△	○	△		
精神保健学 (精神医学を含む) Y131-283-01	精神疾患の予防、治療、リハビリテーションや精神的健康の維持・増進、そしてそれら実施する施策や保健活動についての基礎的知識の定着をねらう。	・専門職（医療保健・福祉・教育）を志す受講生が必要な精神保健の基礎・こころの健康について理解できるようになる。	◎		◎		○		○	
健康・医療心理学 Y131-283-02	精神疾患の予防、治療、リハビリテーションや精神的健康の維持・増進について理解し、それらに関する施策や保健活動についての基礎的知識の定着をねらう。	・専門職（医療保健・福祉・教育）に必要な精神保健の基礎・こころの健康を学び、具体的なアプローチの方法を理解できるようになる。	◎		◎		○		○	
人体の構造と機能及び疾病 Y131-482-01	ヒトの各機能の発達と障害について、医学的・生物学的側面から理解する。	・人体の構造と機能について学び、発達障害の病態と支援法を理解できるようになる。							◎	
障害者・障害児心理学 Y131-283-03	発達期にみられる機能障害の克服に必要な機能回復訓練の基本的な考え方について学ぶ。特に、摂食・嚥下機能障害を例として、機能の発達に遅れのある子どもたちに必要な支援の基本について学ぶ。	・身体の構造と機能を説明できる。 ・発生・発達段階の障害の原因を説明できる。 ・発達期の身体障害の病態と合併する障害に説明できる。 ・摂食・嚥下機能障害について説明できる。 ・摂食・嚥下障害の訓練法について説明できる。							◎	
認知心理学 a (知覚・認知心理学) Y231-284-01	知覚、注意、記憶、情動などの外界情報の認識と利用に関する心の機能について学ぶ。また、隣接諸科学との関連性について把握することを目指す。	・外界情報を認識するための情報処理装置としてのヒトの認知機能を理解できる。 ・他の心理学や隣接諸科学との関連性を理解できる。	◎		◎		△		△	
認知心理学 b Y231-284-02	記憶の特徴について解説し、情動、言語、意思決定などいくつかの心理的機能と記憶システムとの関連性について学ぶ。	・短期記憶と長期記憶のしくみを説明することができる。 ・情動、言語、意思決定などの認知機能と記憶との相互作用について理解できるようになる。 ・認知機能に対応する神経機構を説明することができる。	◎		◎		△		△	

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
行動心理学 a (学習・言語心理学) Y231-284-03	行動の原因と結果の結びつきを知る。	・学習心理学(レスポナント条件づけおよびオペラント条件づけ)について理解し、行動科学の基礎的知識を形成する。			◎		○		○	
行動心理学 b Y231-284-04	行動の原因と結果の結びつきを知る。	・ヒトも含めた動物の行動の多様性について知ることができる。動物行動(求愛、子育て、攻撃、防衛など)の進化の過程を学び、その機能について説明できるようになる。			◎		○		○	
発達心理学 a (生涯発達心理学) Y231-282-01	人の発達とは何かを学習し、対人支援等の基礎を形成する。	・発達段階および各発達段階における発達課題を理解する。 ・障害があっても高齢者になっても発達があるという視点を形成する。	◎		◎		○		◎	
発達心理学 b Y231-282-02	発達心理学の重要な理論(エリクソンのアイデンティティ理論、ボウルビイの愛着理論、感情の発達、脳の発達、遺伝と発達)を取りあげる。人間の発達について多面的に考えることができるようになることを目的としている。	・発達心理学の教科書に頻出する概念や用語の内容を説明できる。 ・代表的な理論について、その理論的背景、心理学における意義を説明できる。	◎		◎		○		◎	
教育心理学 a (教育・学校心理学) Y231-282-03	本授業の目標は、親として、子どもを教える・育てるために、さらに自分自身の生涯学習に必要な基礎的な知識を学ぶことである。	・基礎的な教育心理学の理論(発達のメカニズム、学習の諸相、教育場面での個人差など)や知見を理解できるようになる。	◎	○	◎		◎	○	◎	○
教育心理学 b Y231-282-04	青年期から高齢期までに関わる重要な人間関係について焦点を当て、人間の生涯を理解するための知識を学ぶ。	・日常的に経験する出来事について教育心理学的視点から自分なりに考察できるようになる。	◎	○	◎		◎	○	◎	○
人格心理学 a Y231-283-04	人格心理学の諸理論について理解を深める。	・人格の多様性、複雑性について理解できるようになる。	◎		○		◎		○	
人格心理学 b (感情・人格心理学) Y231-283-05	人格の理解を事例を通し理解を深める。	・人格の多様性とその統合について実際のケースを検討することで人格心理学の基礎を理解できるようになる。	◎		○		◎		○	
臨床心理学 a (臨床心理学概論) Y231-283-06	臨床心理学を概観し、より専門的な科目(臨床心理関連の特殊講義や演習など)に繋げるための基礎的知識の定着をねらう。	・臨床心理学の基礎的知識(歴史、各種理論、適応の問題、主な心理査定・心理療法の内容など)を学び、それぞれの内容が理解できるようにする。	◎		◎		○	○	○	○
臨床心理学 b (心理学的支援法) Y231-283-07	発達段階別のこころの課題とところにアプローチする方法を学ぶ 授業の概要 臨床心理学の成り立ちや方法論について概観し、より専門的な科目(臨床心理関連の特殊講義や演習など)に繋げるための基礎的知識の定着をねらいとする。	・発達段階ごとにテーマとなる課題や「こころの問題」に対する臨床心理学的なアプローチについて学ぶ。 ・「こころの問題」に対する支援(援助)のための基本姿勢を理解できるようになる。	◎		◎		○	○	○	○
社会心理学 a Y231-281-01	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知・行動について理解を深める。	・集団の特性や力学等を学習し、人間個人という視点だけでなく集団という視点を形成し、人間理解を深める。	○	○	○	○	◎	○	◎	○
社会心理学 b (社会・集団・家族心理学) Y231-281-02	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知・行動について理解を深める。	・集団の特性や力学等を学習し、人間個人という視点だけでなく集団という視点を形成し、人間理解を深める。	○	○	○	○	◎	○	◎	○

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
産業心理学 a Y231-281-03	産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップ、人間モデル、モチベーション、キャリアについて解説する。	・産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップ、人間モデル、モチベーション、キャリアについて理解すること。	○		△		△		○	
産業心理学 b (産業・組織心理学) Y231-281-04	産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップ、人間モデル、モチベーション、キャリアについて解説する。	・産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップ、人間モデル、モチベーション、キャリアについて理解すること。	○		△		△		○	
計量心理学 a・b Y231-285-07 Y231-285-08	心理統計学で学んだ心理学実験や検査、調査結果の基礎を土台として、アドバンストコースの統計的分析の方法を学ぶ。	・春学期は、心理統計学復習を兼ねた基礎集計の方法の理解、及びアドバンストコースの代表的な方法である因子分析の基礎概念と考え方を、応用例を踏まえて理解すること。 ・秋学期では、アドバンストコースの他の幾つかの方法の基礎概念と考え方について、応用例を踏まえて理解する。	◎		◎	○	△	△	○	○
認知心理学演習 a・b Y232-284-05 Y232-284-06	認知(cognition)とはヒトの外界情報の認識および利用に関する心の機能である。本演習では「注意」や「記憶」に関する文献に触れ、認知機能について理解を深めることを目標とする。	・ヒトの認知機能に配慮した理解し易いプレゼンテーションができるようにする。 ・閱讀した先行研究の実験を再現したコンピュータプログラムの作成ができる。		○	◎	◎		△		△
行動心理学演習 a・b Y232-284-07 Y232-284-08	行動心理学に関する文献を輪読することにより、人間の行動に関する心理への理解を深める。	・行動心理学に関する理解を深めるとともに科学的視点を形成する。	△		◎					
発達心理学演習 a・b Y232-282-05 Y232-282-06	発達心理学に関する文献を輪読することにより、人間の発達に関する心理への理解を深める。	・発達心理学に関する理解を深めるとともに科学的視点を形成する。	△		◎					
教育心理学演習 a・b Y232-282-07 Y232-282-08	この授業では、心理学科で学んだ理論や研究知見を、実際の現実場面で起きている問題の解釈と解決のために応用する力を養うことをめざす。	・教育心理学の基礎的な理論における知識をもとに、自分自身や他者の経験をはじめ、世の中で生じている諸問題について、教育心理学的に解釈し、客観的に判断し、自分の意見を論理的に表現できる力の習得を目指す。	◎	○	◎		◎	○	◎	○
人格心理学演習 a・b Y232-283-08 Y232-283-09	人格心理学に関する文献を輪読することにより、人間の行動に関する心理への理解を深める。また、人格に関する検査方法等についても理解を深める。	・人格に関する理解を深め、その検査方法に習熟する。			◎	◎	△		◎	◎
臨床心理学演習 a・b Y232-283-10 Y232-283-11	臨床心理学の実践に必要な心理療法の理論と技術を演習により修得する。	・心理療法の理論に対する理解を深め、対人援助に使用することができるようになる。	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	◎
社会心理学演習 a・b Y232-281-05 Y232-281-06	社会心理学の諸領域の具体的研究について主体的に理解を深める。	・社会心理学に関して科学的な研究手法、データの見方などに習熟できるようにする。	◎	○	◎	○	○	△	○	
産業心理学演習 a・b Y232-281-07 Y232-281-08	教科書の講読を通して、産業・組織心理学の基本的な知識を身につけること。	・教科書の講読を通して、産業・組織心理学の基本的な知識が身につけていること。	○		△		△		○	

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
計量心理学演習 a・b Y232-285-09 Y232-285-10	各種データを科学的に分析する方法を学習する。	・統計ソフトの使い方に習熟するのみならず、統計の意味についても深く理解し科学的視点と手法を身につける。	○	○	◎	◎	△		◎	◎
心理学史 Y331-286-01	哲学から始まった心理学史を学習し、現代心理学そして心理学の今後について考えを深める。	・心理学史の流れについて把握し、現代心理学各分野の現状について理解できるようになる。	○						◎	
生理心理学 Y331-284-09	脳神経の構造などの生理学的基礎、知覚、記憶、学習などの心理機能に関連する生理メカニズム、臨床や睡眠など様々な心理学の諸領域における生理心理学的理解、情動研究などにおける生理指標の測定原理・適用範囲について学び、生理心理学の全般的理解を目指す。	・脳神経の構造や機能を理解し、簡潔にそれを理解できるようになること。 ・知覚、記憶、学習などに関わる生理メカニズムを理解し、簡潔にそれを説明できるようになること。 ・精神疾患に関わる脳機能の特徴を理解し、向精神薬の薬理作用の点も含めて説明できるようになること。 ・生理測定を伴う研究の案を的確に立てられるようになること。	○	◎	○	◎	○	○	○	
神経・生理心理学 Y331-284-10	心理的活動に伴って変化する脳波や心電図などの生体信号の測定、神経系への作用(破壊、薬物)による行動変容を観察することを学ぶことを目的とする。	・生理心理学の具体的な研究手法を説明することができる。 ・脳波や心電図など各種生理指標の測定技法や分析法の仕組みを理解し具体的に説明することができる。 ・生理指標を用いた心理学的な実験を計画することができる。	○	◎	○	◎	○	○	○	
青年心理学 Y331-282-09	青年の発達と青年の生きる文脈との関係を理解し、青年期にあたる自分自身への理解を深めることを目的とする。	・青年心理学の実証研究について、自分自身の観点から考察が出来るようになることを目指す。 ・授業でとりあげるテーマに関連する研究論文や研究論文や心理尺度を実施し結果やその考察をレポートできるようになる。	○		○		◎		◎	
乳幼児心理学 Y331-282-10	胎生期・乳児期の発達と親子関係について学習し、性格形成初期の大切さ等を理解することを目的とする。	・発達段階初期の重要性和対人対応の方法を学ぶことで、それらの説明や実際の支援ができるようになる。	○		○		◎		◎	
心理的アセスメント a Y331-283-12	心理臨床において必須といわれるロールシャッハ法の入門段階程度の技法の習得を目標とする。	・投影法とロールシャッハ法について説明できる。 ・ロールシャッハ法の実際を理解する。 ・サインアプローチにおいてデータをどう整理・分析をするのかを説明できる。 ・ロールシャッハ解釈の実際について説明できるようになる。			◎	◎			◎	◎
心理的アセスメント b Y331-283-13	心理アセスメントの方法について理解し、適切な記録や報告について理解することを目的とする。	・心理アセスメントの方法について説明できるようになる。 ・ロールシャッハなどのテストを適切に記録し報告の手続きについて説明できる。			◎	◎			◎	◎
精神疾患とその治療 a Y331-283-14	精神医療の現場において、各疾患に対し、どのような心理療法的アプローチが行われているかを知る。	・精神医学と臨床心理学の異同について説明できる。 ・その上で、代表的な疾患についてどのような臨床像を呈するか理解し、どのような心理療法的介入が可能であるか理解する。	◎		◎		◎	○	◎	◎

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
精神疾患とその治療 b Y331-283-15	精神医療の現場において遭遇する各疾患について、実際どのようなものか理解し、どのような心理療法的アプローチが行われているかを知る。	・代表的な疾患についてどのような臨床像を呈するか理解し、どのような心理療法的介入が可能であるか知る。 ・またそれを通し、臨床心理士の役割、位置づけ、仕事内容を理解する。	◎		◎		◎	○	◎	◎
社会行動論 a Y331-281-09	組織のなかの人間行動について、個人の心理的側面からの理解を深めること。	・組織のなかの人間行動、消費者行動について、心理的側面からの理解ができる。	△		△		○		△	
社会行動論 b Y331-281-10	消費者行動について、さまざまな視点から考える。消費者行動とはそもそもどのようなものか、消費者はどのように意思決定するのか、消費者行動に消費者の心理的な側面はどのように関わるのか等について、実例、研究例を挙げながら考える。	・消費者行動について理解を深めることができる。	△		△		○		△	
現代社会とコミュニケーション a Y331-281-11	社会におけるコミュニケーションについて、学際的立場から理解を深める。	・コミュニケーションに関して多様な研究手法、データの見方などに習熟できるようになる。	◎		◎		○			
現代社会とコミュニケーション b Y331-281-12	社会におけるコミュニケーションについて、学際的立場から理解を深める。	・コミュニケーションにおけることばの役割について科学的な見地から理解を深められる。	◎		◎		○			
データ解析 a・b Y331-603-01 Y331-603-02	データ解析の基礎としてその理論や解析ソフトの使い方を学習する。	・データ解析について説明することができるようになる。 ・解析ソフトを使用できるようになる。			◎	◎			◎	◎
スポーツ心理学 Y331-286-02	運動に関与する認知的な情報処理過程、心理的コンディショニング、スポーツ活動のメンタルヘルス機能について解説し、応用心理学としての役割を理解する。	・スポーツ活動中に惹起される情報処理過程について考察し、知覚―運動の連動性を理解できる。 ・スポーツ活動が持つ心理的な健康維持機能について学び、その応用可能性を論じられる。	○		◎		○		△	△
司法・犯罪心理学 Y331-283-16	犯罪の人間学、臨床心理学的接近の特異性、少年の凶悪犯罪と矯正、精神鑑定と心理鑑定、反社会的パーソナリティ障害と精神病質人格、発達障害、犯罪被害者の問題等々を扱う。	・犯罪の人間学と臨床心理学的接近の特異性について説明できるようになる。	○		○		○		◎	○
心身科学特論 Y331-594-01	心身科学部教員のオムニバス授業により、心と身体の関係について理解を深める。	・心と身体の関係について、自分なりに答えを持てるようになる。	◎		△		○		○	
発展講義 1 a Y331-286-03	生理心理学に関する応用的な側面について具体的な実験データをもとに学習することを目的とする。	・生理心理学に関する応用的な側面について具体的な実験の知見を通して理解・説明できるようになることをめざす。	○	◎	○	◎	○	○	○	
発展講義 1 b Y331-286-04	生理心理学に関する応用的な側面について免疫系・自律神経系の具体的な実験データの解釈を学ぶ。	・生理心理学に関する応用的な側面について免疫系・自律神経系を扱った実験データの特徴について説明できるようになることをねらいとする。	○	◎	○	◎	○	○	○	

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
発展講義 2 a Y331-286-05	青年の心理と行動について学習し、その意味を理解するための視点や方法を身につけることを目的とする。	・発達段階としての青年期の特徴を把握し、対人支援の基礎に活用できるようになる。	○		○		◎		◎	
発展講義 2 b Y331-286-06	胎生期・乳児期の発達と親子関係について学習し、性格形成初期の大切さを理解する。	・発達段階初期の重要性と対人対応の方法を学ぶことで、それらの説明や実際の支援ができるようになる。	○		○		◎		◎	
発展講義 3 a Y331-286-07	人格臨床領域の心理学のうち、より専門的な心理学知識を深めることを目的とする。	・人格臨床領域の心理学のうち、より専門的な心理学の知識について説明することができる。	△		○		△		◎	◎
発展講義 3 b Y331-286-08	人格臨床領域の心理学のうち、より専門的な心理学知識を深めることを目的とする。	・人格臨床領域の心理学のうち、より専門的な心理学の知識を活用することができる。	△		○		△		◎	◎
発展講義 4 a Y331-286-09	人間は社会的生き物であり集団生活を営んでいる。認知心理学のうち社会的認知に焦点づけて学習する。	・社会的認知とは何かを説明することができ、自己および他者が行う社会的認知がどのように生活に関わっているかを説明することができる。	○				◎		○	
発展講義 4 b Y331-286-10	人間は社会的生き物であり集団生活を営んでいる。認知心理学のうち社会的認知に焦点づけて学習する。	・社会的認知の知識を身につけそれを知識を元にして多様な社会における人間の対人行動に対する幅広いものの見方が可能となる。	○				◎		○	
発展講義 5 a Y331-286-11	心理統計法、計量心理学で学んだ基礎知識を活用して、計量領域心理学についてより専門的な講義を展開する。	・心理統計法、計量心理学の基礎知識をもとに、より専門的な計量心理学のテーマについて説明することができる。			◎	◎			◎	◎
発展講義 5 b Y331-286-12	発展講義5aで学んだ知識を活用して、計量領域心理学におけるより専門的なテーマを扱う。	・心理統計法、計量心理学の基礎知識をもとに、より専門的な計量心理学のテーマを実際の研究に応用できるようになる。			◎	◎			◎	◎
発展講義 6 a Y331-286-13	認知行動・教育発達・人格臨床・社会産業・計量領域の心理学のうち、より専門的な心理学の知識を深めることを目的とする。	・認知行動・教育発達・人格臨床・社会産業・計量領域の心理学のうち、より専門的な心理学の知識について説明することができる。	◎		◎					
発展講義 6 b Y331-286-14	私たちを取り巻く身近な住環境、すなわち、生活の基盤である住まいや学校、オフィス、街路などの空間の有り様が心身の健康に与える影響について事例を通して学んでいく。そのうえで、心身の健康が得られる快適な住環境のあり方を検討して提案できる力を養うことを目標とする。	・住まいに求められる機能の種類と特徴を理解し、自らの言葉で表現できる。 ・快適な音環境とはどのような環境を指すのかを理解し、自らの言葉で表現できる。 ・色彩が人間に与える心理的な因子について理解し、自らの言葉で表現できる。 ・子どもが関わる空間(住まい、学校、遊び場等)の現状を理解し、望ましい空間のあり方について提案することができる。 ・快適なまち(公園、街路、景観など)をつくっていくために必要な因子を理解し、自らの言葉で表現できる。	○		○		◎	◎	◎	◎
発展講義 7 a Y331-286-15	認知行動・教育発達・人格臨床・社会産業・計量領域の心理学のうち、より専門的な心理学の知識を深めることを目的とする。	・認知行動・教育発達・人格臨床・社会産業・計量領域の心理学のうち、より専門的な心理学の知識について説明することができる。	○		○		◎		◎	

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
発展講義 7 b Y331-286-16	心理学において幅広く用いられる概念である態度について学ぶことを目的とする。	・個人や社会における態度の重要性と実生活における応用可能性について説明できるようになる。	○		○		◎		◎	
インターンシップ Y231-861-01	企業や役所などで就業体験を行うことを通じ、「働くこと」の意義を学ぶことを目的とする。	事前研修・訪問、事後の報告会を実施することにより、研修の成果を深め、キャリア・ビジョンを明確にすることができるようになる。	○	◎			○	○	◎	◎
卒業論文 Y436-845-01	自分でテーマを決定し調査・実験を行うことで科学的視点を形成し、論文としての構成を学ぶ。	・科学論文の構成を理解し、他者を納得させる内容の論文として仕上げるができるようになる。	◎	◎	◎	◎			○	○
基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ (心理学実験Ⅰ・Ⅱ) Y112-841-03 Y112-841-04	様々な心理現象を解明するための実験、調査、テスト等の手法を幅広い分野に関して具体的に学んでいく。この基礎実験演習を通して、科学としての心理学の特徴を理解し、その研究法の習得を目指す。	・心理学を研究するための基礎的な方法を学び、その技術を自ら実施することができる。 ・実験結果を、科学的報告書の形式に則ったレポートにまとめることができる。		○	◎	◎				△
一般実験演習Ⅰ・Ⅱ (心理学実験Ⅲ・Ⅳ) Y212-841-05 Y212-841-06	基礎実験演習を受けて、さらに実験、調査、テスト等の理解と技術を深める。	・学んだ技術を自ら実施することができる。科学的レポートを作成することができる。		○	◎	◎				△
総合研究演習Ⅰ・Ⅱ Y312-842-01 Y312-842-02	この演習の目標は、4年次に卒業論文を実施するための基礎を身につけることである。	・興味のあるテーマを見つけ、心理学研究の中でこれまでどのようにしてそのテーマが扱われてきたのかをまとめ、それを踏まえて自分独自の研究計画を立てることができるようになる。	◎	○	◎		◎	○	◎	○
総合研究演習Ⅲ・Ⅳ Y412-842-03 Y412-842-04	卒業研究への取り組みによって得られたデータに統計的な手法を適用し分析する。得られた結果について討論し、関連の研究結果と比較検討することをねらいとしている。	・自ら取り組んできた卒業研究について、問題・方法・結果・考察のかたちで系統的にまとめられるようになること。 ・従来の研究知見と比較できるようになること。	◎	◎	◎	◎			○	○
公認心理師の職責 Y231-287-01	公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携について理解する。	・公認心理師の役割について理解する。 ・公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 ・心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 ・守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 ・保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。	○				○		◎	◎
福祉心理学 Y331-287-02	福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、虐待および認知症についての基本的知識について理解する。	・福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ・虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。	○	○			◎	◎	◎	◎

心身科学部心理学科 カリキュラムマップ			心身科学部心理学科のディプロマポリシー(DP)							
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Y-DP-1		Y-DP-2		Y-DP-3		Y-DP-4	
			多角的視点の形成		科学的視点の形成		生活への応用		職業への応用	
			知識	技術	知識	技術	知識	技術	知識	技術
関係行政論 Y331-287-03	公認心理師になるために必要な保健医療分野に関係のある法律・制度、福祉分野に関係のある法律・制度、教育分野に関係のある法律・制度、司法・犯罪分野に関係のある法律・制度、労働分野に関係のある法律・制度について学習する。	・保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ・福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ・教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ・司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ・産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。	○	○					◎	◎
心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ Y337-287-04 Y337-287-05 Y337-287-06	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。	・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について修得する。	○	○					◎	◎
心理演習 Y337-287-07	心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得(コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチの場面想定、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学習することを目的とする。	・具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を通して、それらに関する知識及び技能の基本的な水準が修得できるようになる。	○	○					◎	◎

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項

○・・・DP達成のために、重要な事項

△・・・DP達成のために、望ましい事項

心理学科カリキュラムマップ別表（言語聴覚士関連科目）						
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	言語-DP1	言語-DP2	言語-DP3	言語-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
健康医学入門 (医学総論を含む) Y131-521-02	広い視野で健康を考える	健康を維持するためには個人だけではなく、社会の取り組みも必要であることを理解する。	◎	○		○
健康医学(内科学を含む) Y231-521-01	さまざまな病気を知ることで健康を考える	原因・症状・治療を理解し、個人としては予防できるようになる。 集団においては自分の役割を果たせるようになる。	◎			○
リハビリテーション医学 Y231-591-01	リハビリテーションの目的と、運動器疾患、神経筋疾患、内科疾患の重要性を理解する	リハビリテーションの意味、運動器や内部臓器の正常機能、各種運動器疾患や内部障害の病態・評価・予防・リハビリテーションを理解する。	◎			
社会福祉・教育(社会保障制度、リハビリテーション概論及び関係法規を含む) Y331-262-01		社会保障と福祉の仕組みを知り、その関連を理解する。 障害者を支援する制度は医療だけではなく、一生を通じて様々な施策、制度によって社会サービスが提供されていることや他の専門職との連携があることを理解する。	◎			
言語学総論・各論 Y231-136-01	言語聴覚士に必要な言語の単位と構造など言語学の基礎を学ぶ	1. 言語聴覚士を目指す学生に必須の、言語学の基礎知識を身に付ける。 2. 言語学の基本的なタームおよび考え方を解説し、言語聴覚士国家試験の言語学領域の問題を解く力をつける。	◎	○		○
学習認知心理学 Y231-512-01	言語聴覚士のための学習認知心理学	言語聴覚士の職務には広範な学問領域の知見の理解が求められ、負担は軽くないと察せられるが、授業期間にこの領域の基本的事項を確実に習得する。	◎			
言語発達学 Y231-136-02	正常な言語発達を学習し、言語発達障害とその支援を理解する基礎を形成する	言語発達理論を理解する 言語発達の指標を頭に入れる 子どもの発達の程度を評価する視点を身に付ける	◎			
心理測定法 Y331-285-13	心理学で用いられるさまざまな測定法とその原理について学ぶ	心理学研究において必要とされる方法論と応用に必要な知識の習得	◎			
音声学総論・各論 Y231-136-03	音声学の体系的・理論習得と音の聴取・識別・表記・発音の実践的習得	音声について、基礎から発展的に学習する。	◎			
音響学・聴覚心理学 Y231-591-02	言語聴覚に欠かせない「音」についての基礎を学ぶ	1. 音についての基礎的な概念を理解し、よく用いられる物理量の初歩的な計算ができる。 2. 音響分野で用いられるデシベル（dB）について、その定義や用いられ方を、実践的に習得する。 3. 音の周波数成分（スペクトル）について理解し、音の種類や音声における特徴を習得する。 4. 聴覚に対する音の特性を理解する。 5. 音声、特に母音の生成メカニズムを理解し、各音素についてスペクトログラムでの特徴を習得する。	◎			
失語症Ⅰ Y231-591-03	失語の基礎の基礎	言語モダリティー（話す、聞く、読む、書く）別の言語情報の脳内伝達経路を学び、これらの障害によって起こる失語型・純粋型の症候と病巣との関連を統合的に説明、図示できる。	◎			

心理学科カリキュラムマップ別表（言語聴覚士関連科目）						
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	言語-DP1	言語-DP2	言語-DP3	言語-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
失語症Ⅱ Y331-591-04	失語症候群の評価と治療の実際	失語症の障害構造に即した評価とリハビリテーションについて理解する。 言語聴覚士として必要な失語症に関する臨床技能を習得する。	◎	○	○	
高次脳機能障害学 Y331-513-01	言語聴覚嚥下領域において、最も難解な分野に挑む目に見えにくい障害への対応	言語・行為・対象認知・記憶・注意・実行・情動の高次神経情報の脳内伝達経路を学び、これらの障害によって起こる失語・失行・失認・記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害の症候と病巣との関連を統合的に説明できる。	◎			
言語発達障害学Ⅰ Y231-591-05	言語発達との流れを理解しながら本障害学を身に付ける	言語発達障害領域の全体像を把握する。 精神発達障害児者、広汎性発達障害児者を理解する。 評価法を理解し、その技術を習得する。	◎			
言語発達障害学Ⅱ Y331-591-06	ASDとADHDのある子どもの言語臨床を軸に、アセスメントと支援のあり方を考える	1. 言語発達障害のある子どもが示す症状の特異性を、定型発達の差異から説明することができる。 2. 子ども自身の発達や育成環境との関係の中で生み出される困難さについて説明できる。 3. どのようにアセスメントを行い、それをどのように支援に活かすのか、その基本的視点を説明できる。 4. 各種指導方法の基本的考え方や指導の進め方について、その概略を説明できる。	◎			
小児科学 Y331-525-01	大切な子供達の成長を助け、健康を守るには周りの大人が正しい知識を持っていることが大切である。将来、子供とかわりのある職業を選ぶ場合に必要、子供の健康や病気について理解を深める。	子供の健全な発達や子供に多くみられる病気についての知識を身に付け、かかわる子供の健康状態を正しく把握し、必要な初期対応ができるようになる。	◎			○
音声・言語・聴覚系神経医学 Y231-591-07	3次元的に脳の構造、さらに機能へのつながりを修得する	ニューロンの機構、中枢神経系の構造・機能、発話と聴覚の神経機構、脳神経の構造・機能を学び、これらの病態生理を体系的に説明できる。	◎			
脳性麻痺・学習障害論 Y331-513-02	小児神経学と発達性高次脳機能障害学を修める	言語発達障害を運動・情動・社会性・言語・認知・思考の発達性高次脳機能障害として説明できる。	◎			
臨床実習 Y431-851-01	臨床の現場で12週間の実習を行う	臨床家に必要な基礎知識を体得し、倫理を理解する。	◎	○	○	○
解剖学 Z131-481-01	正常な体の構造と機能を系統的に理解する	人体諸器官の基本的な形態、構造および機能を充分に理解し、習得する。	◎			
生理学 Z131-482-01	基本的な生命の仕組みと働きについて、からだの構成の基本となる器官系からその基礎を学ぶ	健康の基礎となるからだの恒常性維持調節がどのように行われているか説明できる。	◎			
病理学 Z331-492-01	病気の成り立ちを理解する	疾患の予防、診断、治療を主とした臨床医学の基本的知識を習得する。	◎			

心理学科カリキュラムマップ別表（言語聴覚士関連科目）						
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	言語-DP1	言語-DP2	言語-DP3	言語-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
口腔機能論 (臨床歯科医学を含む) Z131-571-01	口腔の機能、歯・歯周組織の構造・機能・疾患について理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ	1. 歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能について知り、説明できるようになる。 2. 歯、歯周組織に発生する疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。 3. 咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。	◎			
耳鼻咽喉学 Z331-565-01	言語聴覚士を目指す人のための耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科ならびに頭頸部外科領域の解剖、生理、病態、疾患を理解する。	◎			
臨床神経学 Z231-522-02	神経解剖を前提に、その病気を理解する	構音障害、嚥下障害、失語症、認知障害の病態生理を学び、これらの障害をきたす疾患の病因、症状、治療、リハビリテーションを体系的に説明できる。	◎			○
形成外科学 Z231-567-01	口腔・顎・顔面・頭部への形成外科的アプローチについて理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ	1. 皮膚の解剖と生理および創傷治癒機転について知り、説明できるようになる。 2. 頭部、顔面の損傷、先天異常、症候群について知り、説明できるようになる。 3. 基本的な形成外科の治療について知り、説明できるようになる。	◎			
口腔外科学 Z231-576-01	口腔の機能、口腔外科領域の疾患を理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ	1. 口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経に発生する疾患、治療法などについて知り、説明できるようになる。 2. 言語、摂食、咀嚼障害と関係のある種々の口腔機能障害に対する評価、治療法について知り、説明できるようになる。	◎			
音声・言語・聴覚医学(神経系の構造、機能及び病態を含む) Z231-513-01	聴器・喉頭・構音器官・呼吸器の解剖生理学について理解し、言語聴覚士としての診査・治療における役割を学ぶ	1. 耳の構造や生理的機能が明確に説明できる。 2. 発声・発語に関わる器官である鼻咽腔・喉頭の構造や生理的機能についても説明できる。	◎			
言語聴覚障害総論 Z131-591-02	言語聴覚療法とは何かを「知る」	ことばの起源、コミュニケーション手段としてのことばの位置づけを考える基本的な知識を得る。 言語聴覚障害の学問としての歴史、言語聴覚士法、言語聴覚士の役割と関連職種、業務と関わりのある周辺の諸事情について情報を得る。 言語聴覚障害そのものを学ぶとともに、言語聴覚障害者を取り巻く環境の様々な問題点にも触れ、支援する立場でどのような関わりができるかを考える。	◎			
言語聴覚障害診断学 Z231-513-04	総合的な応用言語聴覚科学論	言語聴覚障害を評価し、診断し、その背景にある病態生理を説明できる。	◎			
発声発語障害学Ⅰ(音声障害) Z331-513-05	Dysarthria(運動障害性構音障害・麻痺性構音障害)を含む音声障害の理解と音声治療	これまで学んできた発声器官の解剖、生理、疾病学的知識および音響音声学的知識をもとに、言語聴覚学的観点から発声機構（発声の仕組みとその調節）について説明できる。	◎			

心理学科カリキュラムマップ別表（言語聴覚士関連科目）						
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	言語-DP1	言語-DP2	言語-DP3	言語-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
発声発語障害学Ⅱ (機能性構音障害総論・各論) Z231-513-06	機能性構音障害障害像から実際の技術を理解する	構音障害全体の中で機能性構音障害の位置づけを確認し、そこから機能性構音障害の本質を理解する。	◎			
発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害総論・各論) Z331-513-07	器質性構音障害障害像から実際の技術を理解する	器質性構音障害の原因となる疾患の種類と、それぞれの疾患の特徴、構音に及ぼす影響についての知識を得ることにより、構音障害の発生機序についての理解を深める。	◎			
発声発語障害学Ⅳ (運動障害性構音障害総論・各論) Z331-513-08	運動障害性構音障害に関する基礎から臨床実践までの包括的知識の習得と、適切な評価や症状分析力の獲得	運動障害性構音障害のタイプと臨床症状の特徴、各種検査技法とその評価方法、治療方法論について実践的に学習することで、実際の臨床において的確な診断・治療が施行できる。	◎			
嚥下障害総論・各論 Z331-513-09	摂食嚥下の基本を学び、応用学習に備える	摂食・嚥下障害児者のリハビリテーションを理解し、技術を身に付ける。	◎			
吃音 Z331-513-10	言語聴覚士が吃音者に対してどのような治療、援助ができるかについて学ぶ	1. 吃音についての基礎的な知識（定義、発生メカニズム、症状）について知り、説明できる。 2. 吃音と診断するための諸検査・評価法および基本的な治療法について知り、説明できる。 3. 吃音の問題に対するセルフヘルプグループの活動の意義について知り、説明できる。	◎			
聴覚障害・視覚聴覚二重障害 (小児聴覚障害，成人聴覚障害を含む) Z331-565-02	訓練内容や対象者のニーズ・実態を中心に	1) 小児聴覚障害のハビリテーションについて学び、発達、検査と評価、指導訓練について理解する。 2) 成人聴覚障害の種類と特性、検査と評価、指導・訓練について理解する。 3) 視覚聴覚二重障害の種類と特性、評価と訓練について理解する。	◎			
聴力検査 Z231-565-03	検査のやり方や被検査者の誘導法などを会得する	聴力検査の使用方法を習得する。 聴力検査選択の実際を学ぶ。	◎			
補聴器 Z331-565-04	聴覚障害児者の評価とリハビリテーション	補聴器と聴覚障害児者への適応を理解する。	◎			
人工内耳 Z331-565-05	人工内耳の基礎と実際	人工内耳と関連する聴覚障害の包括的理解を得る。	◎			
言語聴覚心理評価学 Z331-513-14	言語聴覚嚥下科学の基礎論の学習	言語聴覚科学、医学、心理学の基礎的専門用語を用い、言語聴覚障害の病態を評価できる。	◎			
心理診断学演習 Z332-283-02	摂食・嚥下障害リハビリテーションの実際	摂食・嚥下リハビリテーションの実際を学ぶ。 実践的な知識や技能の習得する。	◎			
言語機能評価学演習 Z332-513-13	成人コミュニケーション障害の評価と治療	臨床実習に必要な専門知識の補充と熟成を目指す。 医療系専門職員としての基礎知識と基本的態度を学習する。	◎			
言語聴覚学基礎演習 Z232-513-11	言語聴覚療法の実際	障害者心理、家族心理を理解し、言語聴覚療法学の応用を理解する	◎			

心理学科カリキュラムマップ別表（言語聴覚士関連科目）						
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	言語-DP1	言語-DP2	言語-DP3	言語-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
言語聴覚学総合演習 Z232-513-12	臨床で求められる判断力や解決力を養う	言語聴覚障害学の臨床の実際を理解する。 基礎知識の臨床応用を体験し、言語聴覚士になりたい気持ちをもてる。	◎			
特殊演習 1 a (コミュニケーション障害学) Z332-513-15	コミュニケーション障害全般に関する包括的演習	これまでに習得した専門的知識と技能の総復習と、専門論文の読み方、報告書の書き方、症例報告の方法などを学習することにより、病院・施設等での臨床実習に対応できる。	◎	○		○
特殊演習 1 b (コミュニケーション障害学) Z332-513-16	コミュニケーション障害全般に関する包括的演習	これまでに習得した専門的知識と技能の総復習と、専門論文の読み方、報告書の書き方、症例報告の方法などを学習することにより、病院・施設等での臨床実習に対応できる。	◎	○		○
特殊演習 2a (言語聴覚嚥下障害学) Z332-513-17	言語聴覚障害全般に関する包括的演習	言語聴覚臨床における必須知識の習得と実践的活用を目指す。 病院の医師や看護師とのカンファレンスにおいて、根拠のある病態説明とリハビリテーション方略の説明ができる。	◎			○
特殊演習 2b (言語聴覚嚥下障害学) Z332-513-18	言語聴覚障害全般に関する包括的演習	言語聴覚療法の現場で求められる実践力の向上。 基本的病態学の整理と応用的リハビリテーション技法の習得。	◎	○		○
健康科学総合演習 Z312-842-02	健康科学の学びを深める	・プレゼンテーションや論文作成の際に必要な基本的知識と技術を習得する。 ・健康科学に関係する諸問題への対策を考えることができる。 ・社会人としての教養や態度を身に付ける。	◎	○	○	

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項

○・・・DP達成のために、重要な事項

△・・・DP達成のために、望ましい事項

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
健康医学入門 (医学総論を含む) Z111-521-01	広い視野で健康を考える	・健康を維持するためには個人だけではなく、社会の取り組みも必要であることを理解する。 ・健康の定義と健康の指標を具体的に説明できる。 ・患者の権利を理解し、多様性のある対応を考えることができる。	◎	○		○
健康心理学入門 Z111-285-01	心の健康増進に取り組む	ストレスやストレス対処、ライフスタイルと心の健康増進に関する基礎知識を得て、自らの実生活において実践できる。 健康指導者としての基礎的資質を習得する。	◎	○		○
健康スポーツ科学入門 Z111-592-01	スポーツと健康づくりについてはもちろんのこと、身体、心理、栄養、技術、社会、指導といった様々な視点からスポーツを学んでいく。 また講義だけでなく、体験学習やグループワークを多く取り入れる。	科学的根拠に基づくという意味を理解し、物事を科学的に論じることができる。また体験学習やグループワークの場面で協調した行動を取ることができる。	◎	○	◎	○
健康脳科学入門 Z111-511-01	ブレインサイエンスを理解する	心と身体の中核である脳について知る。	◎	○		○
プレセミナーⅠ Z112-841-01	大学生としての初心を固め、将来のキャリア形成の一步を築く。 大学の機能やグループワークの重要性を体験、理解することで、大学生生活の充実を図る。	・健康科学を学ぶ初学者として必要なパソコン操作のスキルを習得する ・グループワークを通じて協調性と協働性を高める ・自己理解と他者理解の目を養うことができる ・自身の将来像をイメージできる	◎	○	○	
プレセミナーⅡ Z112-841-02	「科学的に読む」「科学的に書く」「科学的に話す」ことの基礎を習得する。	・健康科学を学ぶ上で特に必要となる「科学的に読む」「科学的に書く」「科学的に話す」ことの基礎を習得する。 ・グループワークを通して、協調性と協働性を高める。	◎	○	○	
解剖学 Z131-481-01	正常な体の構造と機能を系統的に理解する	人体諸器官の基本的な形態、構造および機能を十分に理解し、習得する。	◎			
学校保健 (学校安全等を含む) Z131-583-01	学校保健の役割を理解し実践者となる資質能力を養う	学校保健活動の重要性を理解する。 学校保健には、保健管理と保健教育があり、それぞれの役割と具体的な活動内容を知っている。また、学校保健安全法に記されたいくつかの基準とその必要性を理解する。	◎	○		○
生理学 Z131-482-01	基本的な生命の仕組みと働きについて、からだの構成の基本となる器官系からその基礎を学ぶ。	健康の基礎となるからだの恒常性維持調節がどのように行われているか説明できる。	◎			
衛生学・公衆衛生学 Z231-583-02	わが国の国民の各年齢層に対して地域や職場といったそれぞれの生活状況に応じて実施されている公衆衛生活動を紹介し、同時に公衆衛生活動を理解するために必要な用語についても解説を加える。	・公衆衛生活動の有用性を理解する。 ・主要な公衆衛生の指標を説明できる。 ・心身の健康増進に向けて、公衆衛生の立場からの対策を考えることができる。	◎	○		○
学習認知心理学 Z231-282-01	言語聴覚士のための学習認知心理学	言語聴覚士の職務には広範な学問領域の知見の理解が求められ、負担は軽くないと察せられるが、授業期間にこの領域の基本的事項を確実に習得する。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
救急・応急処置 Z231-556-01	緊急時、または傷病者発見時にバイスタンダー(救急現場に居合わせた人)としての役割と行動を習得することにより、尊い命を守ることを学ぶ。	救急の連鎖（心停止の予防・心停止の早期発見と通報・心肺蘇生とAED・二次救命処置と心拍再開後の集中治療）について理解並びに実践ができる。 心肺蘇生の手順を理解し、胸骨圧迫とAED使用ができる。 成人、子どもの一次救命処置を理解することができる。 日常生活に遭遇する突発的な状況下での応急処置の必要性と実際を理解する。	◎			
健康医学（内科学を含む） Z231-521-02	さまざまな病気を知ることで健康を考える	原因・症状・治療等を理解し、個人としては予防できるようになる。 集団においては自分の役割を果たせるようになる。	◎			○
健康統計学 Z231-603-01	健康を科学的に評価するための基礎を学ぶ	健康情報を「つくる側」と「つかう側」の両方の視点より、できるだけ多くの保健統計例を紹介し、現場で有用な基本的統計処理能力とその利用方法を習得する。	◎			
言語学総論・各論 Z231-136-01	言語聴覚士に必要な言語の単位と構造など言語学の基礎を学ぶ	1. 言語聴覚士を目指す学生に必須の、言語学の基礎知識を身に付ける。 2. 言語学の基本的なタームおよび考え方を解説し、言語聴覚士国家試験の言語学領域の問題を解く力をつける。	◎	○		○
生涯発達心理学 Z231-282-02	自分の歩む道（ライフ・コース）を考える	自らの心の成長とアイデンティティの確立を模索し、人生における生きがいを探求し続ける契機をつかみ、これから自分の歩む道（ライフ・コース）を考えられるようになる。	◎			
スポーツ栄養学 Z231-594-01	スポーツのパフォーマンスに貢献する栄養学と健康に役立つ栄養学	健康とスポーツの競技力向上に必要な栄養学的知識を習得し、自分自身で「何を食べる・どのように食べるか」のアスリートの、健康的な食事管理ができる。	◎			
スポーツ心理学 Z231-592-02	スポーツ心理学の基礎を学び、同時にメンタルスキルを獲得する。	自分自身の感情、思考、行動のコントロールをすることで、本番での実力発揮やストレス対処法を学ぶ。 セルフコントロールができることで、円滑な人間関係を築く。 実力の発揮や良好な対人関係を結ぶことができる。	◎			
精神医学・精神保健 Z231-523-01	精神医学・メンタルヘルスの基本の基本を学ぶ	精神医学・精神保健の基本を理解する。	◎	○		○
病理学 Z231-492-01	病気の成り立ちを理解する	疾患の予防、診断、治療を主とした臨床医学の基本的知識を習得する。	◎			
分子遺伝学 Z231-451-01	健康科学における遺伝の話	セントラルドグマ、染色体、メンデル遺伝、多因子遺伝、集団遺伝、遺伝子診断などを学び、これらを体系的に説明できる。	◎			○
リハビリテーション医学 Z231-591-01	リハビリテーションの目的と、運動器疾患、神経筋疾患、内科疾患の重要性を理解する。	リハビリテーションの意味、運動器や内部臓器の正常機能、各種運動器疾患や内部障害の病態・評価・予防・リハビリテーションを理解する。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
社会福祉・教育 (社会保障制度、リハビリテーション概論及び関係法規を含む) Z331-262-01	障害者支援制度・社会保障・福祉について、国家試験ならびに臨床現場で必要とされる基本的な知識の習得	社会保障と福祉の仕組みを知り、その関連を理解する。 障害者を支援する制度は医療だけではなく、一生を通じて様々な施策、制度によって社会サービスが提供されていることや他の専門職との連携があることを理解する。	◎			
小児科学 Z331-525-01	大切な子供達の成長を助け、健康を守るには周りの大人が正しい知識を持っていることが大切である。将来、子供とかわりのある職業を選ぶ場合に必要、子供の健康や病気について理解を深める。	子供の健全な発達や子供に多くみられる病気についての知識を身に付け、かかわる子供の健康状態を正しく把握し、必要な初期対応ができるようになる。	◎			○
ストレス科学論 Z331-281-01	ストレス反応を「調節する、あるいは、積極的にストレス反応に対処する」、という視点に沿って展開していきます。	1.心理的・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。 2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得する。 3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここで」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	◎			
生活習慣病論 Z331-594-02	生活習慣と健康との関連を学ぶ	生活習慣病のメカニズムを理解し、その対策を具体的に説明できる。	◎			
救急・応急処置演習 Z332-556-02	緊急時、または傷病者発見時、バイスタンダー(救急現場に居合わせた人)として対応できる救急応急処置実践技術を習得する。	人間の命を守るための救急・応急処置の知識・技術が実践的に習得できる。 運動実施中に発生しうる救急疾患や外傷的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防が理解できる。 運動開始前後の自覚症状、他覚徴候などの具体的な状態を理解し、運動中止を判定する方法を理解する。 内科的な急性、慢性障害の概要と予防方法を理解する。 AEDや心肺蘇生、気導異物除去などの技術習得により実践ができる。	◎		○	
薬理概論 Z131-474-01	薬理学を中心に、薬物に関する基本的事項を学ぶ。	薬物の生体への働きかけと生体の薬物への働きかけについて理解する。	◎			
養護概説Ⅰ Z131-583-03	養護教諭の歴史と養護活動の基礎	養護教諭とはどのような職業か、どのような役割を担うのか、その成立過程にはどのような要因や歴史的背景があったのか、などについて理解できる。 専門職である養護教諭の活動全般とその成立過程の全体像が理解できる。	◎			○
養護概説Ⅱ Z131-583-04	養護教諭としての活動の実際を体得する	養護教諭として、保健室の中でどのように子どもと関わっているか、そのプロセスを理解する。 子供から「話を聞く」「表情を診る」「痛みの程度を観察する」などを通して、判断・処置につなげる過程も理解する。	◎	○		○

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
小児保健学 Z231-525-02	子どもの成長や発達段階を学ぶことにより、子どもの養育、環境、社会問題化している虐待や障害について、幅広く子どもを取り巻く現状と課題からの保健活動を考える。	①子どもに関する制度政策(保健衛生の変遷、母子保健サービスの動向、児童に関する法律等)について学ぶ ②子どもの発達段階とそれらの課題について学ぶ ③小児によくみられる疾病や事故を理解し、予防や安全対策、緊急を要する際の対応を学ぶ ④保健現場で活用できる応用力を身につける ⑤子どもの視線で物事を見つめ、子どもと接する際の適切な態度を習得する ⑥子どもの発達段階に応じた身体等の計測が正しく実施でき、アセスメントできる ⑦発達障害や児童虐待等、昨今の現状をふまえ、子どもの環境を考えることができる	○	○		○
微生物・免疫学 Z231-495-01	微生物の中でも、主に人体に有害な影響を及ぼす病原性微生物を中心に話題を進めるが、一部に酒やヨーグルトの製造に利用される応用微生物についても知識を深める。	微生物の分類（細菌、ウイルス、真菌、原虫）を説明できる。 菌、ウイルス、真菌、原虫の代表的な病原性微生物について説明できる。 感染症の対策法を説明できる。 学校でおきる感染症とその対策法を説明できる。	○			
予防医学 Z231-583-05	子どもの病気を予防・発見できる力を習得する	子どもの訴えに対して、正しく見立てをし、適切な指示・指導ができる。 実例をもとに学校で確実に実践できる能力を身につけることができる。	○			
健康相談（カウンセリング） Z331-583-06	養護教諭が行う健康相談・健康相談活動	心身に問題を抱えた児童生徒に対して行う健康相談・健康相談活動の理論を理解するとともに、養護教諭が児童生徒に対応する具体的な技能を習得する。	○	○	○	○
食物化学（食品学を含む） Z331-388-01	食物に含まれる主要な栄養成分(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル)を中心に、それらの化学的、物理的性質と生体内での役割について学習する。	講義を通じ学んだ、食物の様々な利用法や安全性、またそれら食物に含まれる成分の機能性などについて考察し説明できる。	○			
栄養生化学 Z231-594-03	食物を体と力に変換するメカニズム	栄養素と健康との関係が細胞の生理活動に深く関わっていることを理解する。	○			
学校保健演習 Z232-583-07	学校保健活動を学校現場で実践するために必要な知識と技術の習得	学校保健活動の中でも中心的な健康診断と環境衛生検査が正しく実施できる技術を習得できる。	○		○	○
臨床栄養学 Z331-594-04	健康の回復と病気の予防のための栄養摂取法	具体的な傷病への対処法を学ぶ事により栄養学をより深く理解する。 健康運動指導士など各種資格試験対策、学校教育や市民活動など健康・スポーツ指導の際に必要な栄養関連のノウハウを習得する。	○			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
看護学 Z331-585-01	五感で感じて実践する看護を学ぶ	本講義で学習ならびに習得した一連の技術が、学校保健での実践の場において、健康と生活を整える援助を自らが提供できることにつながるような学習とする。 主として講義により、看護技術の展開過程に必要な技術を概説することとし、健康と生活を整える援助技術に関する基礎を習得する。	◎	○		○
看護演習 Z332-586-01	理論とケアを連動させた看護技術とアセスメント力を習得する	1)学校保健の中での医療、緊急時における医療的援助についての基本的知識を習得する。 2)日常生活における援助に必要な看護技術を習得する。 3)基礎看護技術から対象の個性にあわせた技術の活用を理解し、習得する。	◎			○
看護実習 Z337-851-01	医療の現場において「いのち」を学ぶ	疾病を抱える患者にとっての療養機関の一つである病院において、その機能や医療従事者の役割、多職種連携等を通して患者のQOLや生きる強さを引き出すためのケアについて学び、養護教諭に必要な基礎的看護知識並びに技術を習得することである。	◎	○	○	○
健康情報と医学 Z231-621-01	日々健康であるための健康情報リテラシー及び心の能力を育む	様々な情報が溢れている今日、自分自身の状況やニーズに合った情報を入し、それらを活用しつつ、日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的能力を身につける。		○		○
生涯健康論 Z231-594-05	一生の健康を考える	栄養・運動・休養について深く学び、一生を通じて病気や障害を生じないように知識と技術を獲得する。	◎			
環境健康医学 Z331-583-08	健康と環境について考える	環境が健康に及ぼす影響について理解を深める。	◎	○		
喫煙と健康 Z331-594-06	喫煙問題から健康と社会を考える	・喫煙による健康障害を説明できる。 ・喫煙を例にして薬物依存を理解し、その対策を考えることができる。 ・喫煙習慣が普及した歴史を理解し、たばこのない社会形成を目指して、活動することができる。	◎	○		
先端医療概論 Z331-621-02	生命科学の進歩とそれが医療に新たにもたらすもの	これまで、そしてこれからの医療の進歩を支える様々な生命科学やテクノロジーの技術発展やそれらが抱える問題点について基礎的な理解を深め、それが必要とされる分野に進むために必要な足掛かりとできる。	◎			
長寿科学 Z331-594-07	高齢者の健康についての基本知識を習得する	高齢者に特徴的な症状や病気を学び、高齢者の健康管理の基礎となる知識を身につける。 介護予防、健康寿命の延伸など、高齢者の疾病の予防の重要性を習得する。	◎	○		

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
介護概論 Z231-583-09	高齢社会における現状と課題を学び、これから必要とされる社会的支援の在り方を考える。	①高齢者に関する社会保障制度としての「介護保険法」の理念並びに仕組みを学び、高齢者介護サービス提供についての現状と課題を理解する。 ②医療、保健、福祉サービスにおける専門職の役割や活動の場面から多職種連携についての理解を深める。 ③加齢は誰もが経験することであり、また自身も歩む道であることをふまえ、高齢になることが特別なことではなく、自身や家族のこととしても考えることができ、必要な時に必要な人に支援の手をさしのべることができる。	◎	○		○
母性看護学 Z331-587-01	「いのち」のなりたち、誕生の過程から、母性の果たす役割と「いのち」について考える。	女性として、妊娠～出産までの過程を学び、妊娠、分娩期の母子の生理的变化とセルフケア支援の必要性について理解し、説明ができる。 リプロダクティブ・ヘルス、ライフサイクルを通じての健康問題と援助について説明ができる。 母子の健康についての動向、母子保健施策、国際比較の現状と課題について説明できる。	◎			○
メンタルヘルス Z331-523-02	児童生徒、保護者、教職員のメンタルヘルス	精神的問題を抱えた人の心理について基本的な知識を得る。	◎			○
体育原理 Z131-593-01	スポーツや体育の現実を直視し、スポーツや体育の世界を支配するさまざまな諸原理を明確にして、それらを体系立てて論究するスポーツや体育の問題群と向き合い、考察を重ね、自らの考えを討議によって批判にさらし、より精緻なものに高めていく。	①体育やスポーツに関しての原理原則を論理的に考えていくことができる。 ②体育やスポーツに関して客観的に、発言し、記述し、議論できる。 ③体育やスポーツの専門家として自己のあるべき姿や、人間社会の課題に関心を持つだけでなく、その解決に向けて探求する態度を持つ。	◎			
体力測定・評価 Z131-592-03	一般の方々の健康づくりやアスリートの競技力向上に欠かすことができない体力を科学的に捉えて、そのうえで体力をどのように測定し評価するのかを学ぶ。	指導者の視点から体力を科学的に捉えるための知識と評価の基礎を習得する。	◎			
運動学（運動方法学を含む） Z231-593-02	スポーツ運動学・キネシオロジー入門	客観的および主観的にとらえられた人間の運動に関する知識を獲得するだけでなく、自分自身が考えた運動指導の内容を授業で得た知識をもとに批判的に検討することによって、よりよい指導へと修正できる。	◎			
運動生理学 Z231-482-02	運動時のからだの反応や運動トレーニングで体力やスポーツパフォーマンスがどうして向上するのか、そのしくみについて学ぶ。	この科目で学んだ知識を十分に理解し、実際のスポーツ活動や指導に応用できる。	◎			
障がい者スポーツ論 Z231-592-04	アダプテッドスポーツとしての障害者スポーツの理解	障害とは何であるかを理解し、障害者スポーツの対象者がどのような状態であるかを深く学ぶ。 障害者スポーツとしてパラリンピック等で設定されている多くのスポーツ種目を理解し、指導する場合に必要な知識を身につける。 実践者としての基本的な姿勢について考察できる。	◎	○		○

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
スポーツ経営学 Z231-592-05	スポーツ集団が成果を高めるためのマネジメントについて学習する。 スポーツマーケティングについて学習する。 スポーツイベントの運営や企画について学習する。 なお運動部活動や体育祭も事例として取り上げる。	組織のマネジメントについて論じることができる。 スポーツマーケティングの基本的知識を理解し、科学的根拠に基づいてスポーツ消費者を分析することができる。 スポーツイベントの事業を立案することができる。	◎	◎		
スポーツ情報論 Z231-592-06	スポーツ情報の中から心理学に関連するトピックスを取りあげる。既存のデータを用いてそれらの情報を処理する方法を学習する。また、基礎的な実験を行いデータを収集し、それらの情報を解析する基本的な方法を学習し、統計ソフトを用いて統計処理を行う。得られた結果をまとめてレポートを作成する能力を高める。	スポーツ情報を処理する能力が高まる。基本的な統計解析ができるようになる。レポートを作成する能力が高まる。	◎			
スポーツ政策論 Z231-592-07	本講義では、スポーツ行政に関する知識を理解し、国および地方自治体を主として、スポーツをどのように普及振興させようとしているのかを学びます。 またアクティブラーニングを積極的に展開します。	国や地方のスポーツ政策に対して自分の考えを論じることができる。	◎	◎		
トレーニング科学論 Z231-592-08	トレーニングの目的（健康増進、介護予防、競技力向上）や対象者（高齢者、一般成人、アスリート等）に応じたトレーニングにおける理論と実施方法について学ぶ	トレーニングに必要な基礎知識を習得し、適切なトレーニング計画を立案できる。	◎			
バイオメカニクス Z231-592-09	身体運動を力学的に捉える基礎を学び、これまで自らが経験してきた運動やスポーツについて力学的な視点から考えることができる統合的な学習経験と創造的思考力を養うことをねらいとする。	ヒトの運動は筋力の発揮によって成り立っている。しかしながら、単に筋力が大きいだけでは高いパフォーマンス（運動の成果）を発揮することができない。一流のスポーツ選手は力発揮のタイミングや力調節を微妙に行うことにより、我々の想像を絶するパフォーマンスを発揮している。バイオメカニクスでは、力を扱う学問である力学を基に、身体運動のメカニズム（しくみ）について究明していく応用学問である。この授業では、運動と力との関係について学び、スポーツでみられる動きを力学的に考察し、指導に生かすことができるようになる。	◎			
運動療法論 Z331-592-10	運動療法の目的は、身体機能の障害をもつ者あるいは障害の予防に対して、その人がもつ能力を最も効果的な運動で高め回復させることである。近年、運動療法が生活習慣病の一次予防に効果的であることが知られている。本講義では、内科的疾患および生活習慣病を有する者の運動処方および運動療法について概説する。	運動療法の効果を科学的に理解し、具体的な処方を他者に提供できる様になることを目標とする。	◎			
スポーツイベント論 Z331-592-11	デジタル、IoT、AIが発展している現代において、多くの人が集うイベントが注目されている。特にスポーツイベントは経済活性化だけでなく、地域振興やまちづくりにも活用されるようになった。そこで、本講義では、スポーツイベントの知識や企画方法について学修する。	スポーツイベントの企画ができるようになる。	○	○		
スポーツ指導方法論 Z331-592-12	指導者のあるべき姿を考え、討論する	時代が求める指導者になるための基礎を習得する。 指導者としての哲学、人格、スキルが身につける。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
スポーツ社会学 Z331-592-13	スポーツをひとつの「社会的出来事」として捉え、社会に及ぼす影響やその要因を考える	今日の体育・スポーツを巡る諸問題をスポーツ集団や組織または制度の側面からとらえ、スポーツの社会的構造と機能について様々な学説から考察することができる。	◎	○		
スポーツ文化論 Z331-592-14	豊穡なスポーツ文化に触れる	様々な体育やスポーツにまつわる諸問題を正しく理解、認識し、問題解決ができる能力を身につける。	◎	○		
スポーツマーケティング Z331-592-15	スポーツの成長産業化とスポーツ振興を推し進めていく上で必要不可欠となるマーケティング理論について事例を交えつつ展開する。	・スポーツ特性を理解し、説明できる。 ・スポーツマーケティング理論を理解し、説明ができる。 ・スポーツビジネス現場で必要となる知識を理解し、実践に移すことができる。	○	◎		○
レクリエーションスポーツ論 Z331-592-16	レクリエーションやスポーツの援助法の知識を包括的に習得する	子どもから高齢者まであらゆる人が、その人が望むレクリエーション活動の実施、またレクリエーションの自立を実現するために必要な援助者としての姿勢や考え方、援助技術を身につける。	◎		○	
体育実技（器械運動） Z235-593-03	徒手、及び器械で行う身体運動の必要性を理解し、実践方法を身につける。	徒手体操と器械体操の特性を理解し、運動技術を身につけ指導法を習得する。	◎		○	
体育実技（水泳） Z235-593-04	近代4泳法を修得していく中で、指導方法を養う。さらに、泳法を修得するためにどのように身体を動かす必要があるのか、専門知識・技術を理解するとともに論理的思考力や問題解決能力を養う。自己管理力、チームワーク、生涯学習力なども水泳を通して身につけることをねらいとする。	水泳に関する専門的知識および技術について学び、自らが指導できるようになるための必要な知識・技能を習得する。保健体育教員として要求される水泳の知識・技術の獲得を目標とする。また、教育実習の際、授業の立案・計画および実施ができるよう指導力の習熟も目的とする。クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの近代4泳法について、生徒たちの見本となるような運動能力を身に付けるとともに、水泳技術を習得させるための指導法（理論的理解）を理解する。また、水泳以外の水中運動や、水中安全教育についても学ぶ。	◎		○	
体育実技（ダンス） Z235-593-05	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、安全に思いきり身体を動かす事、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さなどダンスの醍醐味を経験する。	・ロック、ヒップホップ、サンバ（現代的なリズムダンス）の説明ができ、しかも振り付け、踊る事ができる。 ・表現ダンスの指導ができ、しかも身体で表現する事ができる。 ・いかなるリズムダンスや表現ダンスに対し、人前で恥ずかしがらずに自信を持って発表する事ができる。	◎		○	
体育実技（陸上競技） Z235-593-06	体育授業で陸上競技を指導できるようになる！	『中学校学習指導要領保健体育編』に示された「C陸上競技」の「第3学年」レベルの技能を習得する。その技能を身に付けるための段階的指導を他者に行うことができる。 授業で取り上げた各種目の記録会を運営できる。	◎		○	
体育実技（剣道） Z335-593-07	剣道の基本的な動作を修得するためにどのように身体を動かす必要があるのか、専門知識・技術を理解するとともに論理的思考力や問題解決能力を養う。	剣道の知識、基本動作・基本技能および初心者や初級者への指導法を学び、自らが実践できる。	◎		○	

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
体育実技（サッカー） Z335-593-08	サッカーの基本を学ぶと共に、サッカーを通して指導者としての基本的なコーチング法を学ぶ。	経験者のみならず初心者でもサッカーの楽しさを感じ、技術レベルが向上する。	◎		○	
体育実技（柔道） Z335-593-09	柔道の基本的な動作を修得するためにどのように身体を動かす必要があるのか、専門知識・技術を理解するとともに論理的思考力や問題解決能力を養う。	柔道の知識、基本動作・基本技能および初心者や初級者への指導法を学び、自らが実践できる。	◎		○	
体育実技（ソフトボール） Z335-593-10	本授業では、ソフトボールの歴史と特性、基本的な技術や戦術、そしてルールについて学ぶとともに、体育授業で利用可能なさまざまなミニゲームを用いてボールや用具の操作、そして攻撃や守備の戦術について学習する。	『中学校学習指導要領 保健体育編』に示された「E球技」における「ベースボール型」の[第3学年]レベルの技能を習得すること、その技能を身に付けるためのドリルゲームやタスクゲームの行い方を工夫できるようになること、そしてソフトボールのゲームを運営できるようになることである。	◎		○	
体育実技（テニス） Z335-593-11	生涯スポーツとして広く普及しているテニスを通じてラケットスポーツの楽しさ・おもしろさを理解し、実践できる能力・態度を養う。	1. テニスの競技特性、技術構造、ルール、マナー、戦術、練習方法等を理解する 2. 基礎的な技能、戦術を習得する 3. 道具を用いたネット型対戦スポーツの特性を理解し、指導法を習得する	◎		○	
体育実技（バスケットボール） Z335-593-12	バスケットボールの授業をおこなうための指導法を学び、専門的な技術を養成するとともに、指導者としての資質を身につける。	バスケットボールの特性を理解して、バスケットボールの授業をつくりあげることができる。 バスケットボールを指導できる技術を身につける。 生徒の個性を尊重して、適切に評価することができる。	◎		○	
体育実技（バドミントン） Z335-593-13	バドミントンの特性に気づき、認識を深め、実践できるようにする。	指導方法を身に付け、自らが実践できる技術を習得する。	◎		○	
体育実技（バレーボール） Z335-593-14	教員免許取得に必要なバレーボール競技の知識、技能および指導法を習得すると共に指導者としての資質向上を目指す。	主体的に個人スキルの課題を発見、解決できる実践的能力を高める。 他者との協調性を備え、積極的にコミュニケーションをとることができる。	◎		○	
体育実技（ラグビー） Z335-593-15	ラグビーの特性、ルールおよび基本的なスキルについて学び、自らが実践できるようにすることを目標とする。	ラグビーの楽しさを学ぶのは勿論のこと、指導者としての資質の向上を図る。	◎		○	
健康運動指導実技（アクアビクス） Z235-592-17	水中運動の実践的指導技術の習得	水の物理的特性を理解することにより、アクアエクササイズ的安全かつ効果的なプログラム作成能力および実践的な指導技術と技能を習得する。	◎		○	
健康運動指導実技（エアロビック） Z235-592-18	エアロビックを指導するための基本的な技術を習得する	エアロビックの特性と効果について理解し、対象（性、年齢、体力）に応じた運動の効果と安全性が確保できるようなプログラムを構成指導できる能力を習得する。	◎		○	
健康運動指導実技（ジョギング・ウォーキング） Z235-592-19	健康運動の基礎について理解を深める	生活習慣病を予防するための効果的なウォーキング・ジョギングの指導ができる。	◎		○	

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
身体表現実技 （エアロビック） Z335-592-20	エアロビックの技術はもちろん、指導技術においてもレベルの高い内容を学習する。また専門指導者として必要な理論や指導法、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチング、補助運動についても学ぶ。	エアロビックの専門指導能力を習得する。 『公認エアロビック指導員』資格及び『エアロビック技能検定3級』を取得する。	◎		○	
身体表現実技（ダンス） Z335-592-21	柔軟性を養うストレッチ・筋力トレーニング・身体の一部を動かすアイソレーションを身につけ、その上で色々なステップを学び、コンビネーションへ発展させていく。	ダンスの基本となるバレエやジャズダンスのテクニックおよび色々なジャンルの音楽に合ったコンビネーションを学び、ダンスによる表現力を身につける。	◎	○	○	
レクリエーションスポーツ 実習Ⅰ Z233-852-01	スキーを通じたレクリエーションスポーツの実践	健康の維持・増進のための生涯スポーツ・レクリエーション活動の指導能力を習得する。 協調性、共感性、自立心、リーダーシップなどを養うための指導法を習得する。			◎	
レクリエーションスポーツ 実習Ⅱ Z333-852-02	優れたレクリエーション指導者として必要な知識、技術、指導法を実践しながら学んでいきます。その中で、自主性を養い、規律を守り、友情を深め、豊かな人間性をも獲得していきます。	キャンプ活動やレクリエーション活動に関する技術を修得し、指導を行うことができる。	◎		◎	◎
運動生理学演習 Z232-482-03	運動生理学で学んだ理論を実践する	呼吸機能と筋機能のメカニズムについて、自ら測定し、理論的理解と実際の生理的応答を理解する。	◎		○	
スポーツ心理学演習 Z232-592-22	科学的な方法で質問紙調査ができるようにする	質問紙を用いて調査が実施できる。 データを分析する基本的な方法が習得できる。 得られた結果をまとめてレポートが作成できる。	◎		○	
体力測定・評価演習 Z232-592-23	体力測定評価の知識と技能を実践を通して習得する	授業で取り扱った体力測定と得られた測定値の評価を各自で行うことができる。	◎		○	
トレーニング演習 Z232-592-24	基本的なトレーニング方法を理解した上で、実践によるトレーニングへの理解を深めていくように講義を進めていく。身体各部のストレッチングおよび、各種トレーニングの方法・実践と共に指導法を学んでいきます。	ストレッチや各種トレーニングの方法を理解し、見本を見せることができ、かつ指導をすることができる。	◎		○	
運動療法演習 Z332-592-25	様々な対象に応じた運動療法について実践を通して学ぶ	健康づくりの指導者として、確かな技術力と指導力を身につける。	◎			
健康運動指導演習 Z332-592-26	健康運動指導士としての技能・態度・品格を身につける	実習の場面で健康運動指導士としてのコミュニケーションやたちふるまいに加え、専門的な知識に裏付けられた運動指導ができる。	◎			
コーチング演習 Z332-592-27	リーダーシップに関する知識やスキルを実践を通して学びます。またミーティングやグループディスカッションの方法についても学びます。 またグループワークやアクティブラーニングを行っています。	確かなリーダーシップを身に付け、集団をまとめ、方向付けることができる。また講義を通して、集団の中でチームワークやルールの遵守といった模範的態度を示すことができる。	○	◎	◎	
障がい者スポーツ演習 Z332-592-28	障がい者スポーツの具体的な種目を体験し、その運営方法を学ぶ。	障がい者スポーツの実践者、コーチ、ボランティアを行うことが可能な能力を身に付ける。	○		◎	

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
スポーツ栄養学演習 Z332-594-08	部活・クラブチームの指導者や養護教諭が活用できるスポーツ選手を対象とした栄養摂取法を理解し、その調理方法について学ぶ。	スポーツ選手の基本食を理解し、調理できるようになること。また、一般食とのボリュームや品数の違いについて説明できるようになる。	◎	○	◎	
スポーツコンディショニング演習 Z332-592-29	スポーツ傷害の適切な応急処置、テーピングなどに加え、競技スポーツにおける実践的知識と技術を習得するとともに、科学的なものの見方、考え方をトレーニングする	演習を通じ学生自身が自己管理能力を高め、自身のパフォーマンス向上を図るとともに、スポーツ指導者を目指す者として、最低限身に付けておくべき傷害に関する評価、および予防方法についての知識と技術を習得する。	◎		○	
スポーツプログラミング演習 Z332-592-30	健康科学科の総合的な学びを自らのトレーニングを通じて実践する	運動指導者としての仕上げ段階となる実践的な指導方法について学び、あらゆる対象者のトレーニングからリハビリまでを指導できる。	◎			
スポーツリハビリテーション演習 Z332-592-31	スポーツリハビリテーションにおける主な評価方法について学び、実習を行う。人体の運動を理解するためには、運動機能を正しく評価する必要がある。これまでに学んだ運動器系および呼吸循環器系の解剖学、生理学、運動学の知識を統合し、人体が有する基本機能について計測および解析することによりその理解を深める。	筋力測定、電気生理学的検査（筋電図）、心拍数および呼吸気ガス分析などを実習を通じて理解し説明できるようになる。	◎	○	○	
バイオメカニクス演習 Z332-592-32	バイオメカニクスにおける各種測定法の原理・原則について学ぶとともに、実践する。また、得られたデータの数学的演算処理の方法について学ぶ。	ヒトの基本的動作を対象として、定量的に分析・評価できるようになる。また、測定によって得られたデータを研究目的の達成に役立つように加工・処理する方法を身につける。	◎	○	○	
レクリエーションスポーツ演習 Z332-592-33	レクリエーション・インストラクターとしての技術を身につける	実技を中心とした授業であり、各種ニュースポーツを体験する他、運動ゲームやレクリエーション指導を行い、レクリエーション・インストラクターとして必要な技能を習得する。	◎		◎	
保健体育指導演習 Z332-593-16	保健体育の授業を行うための実践的指導能力の基礎を身につける	保健体育の授業を構成する4要素について、教育現場における具体的な事例をもとに理解するとともに、学習指導案の作成や授業分析を行うことによって、新卒教員に要求される保健体育科の基礎的授業力を身につける。	◎		○	
保健体育実践演習 Z432-593-17	保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび保健体育指導演習を通じてこれまでに修得した保健体育教師としての知識や技能をベースとしながら、中学校および高等学校の教育現場での保健体育教師に要求される「実践的指導力」を身につけます。	・学校現場で出会う可能性のある様々な事例や問題を想定し、保健体育科教師としての適切な対応を行うとともに、学習指導を立案したり、実践したりすることができる。 ・教育実習のふり返りを生かし、「実践的指導力」を身につけていく上での各自の課題を把握するとともに、その課題の克服に向けた様々な取り組みを実践・継続することができる。	◎		○	
海外の生涯教育 Z231-271-01	現代世界の成人教育・生涯学習	現代世界の成人教育・生涯学習の概要について理解する。世界の生涯教育を理解し、問題意識を深め、自ら課題探求をする。		◎		

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
学習情報の収集と提供 Z231-271-02	情報を読み解く力をつける	テキスト『3.11後の放射能「安全」報道を読み解く』に基づき、情報を読み解くとはどのようなことであるのかを、テキストの中の具体的事例を通して理解する。		◎		
企業内教育論 Z231-271-03	企業における人材教育・育成をめぐる諸問題を考える	企業におけるヒトのマネジメントの基礎を知り、企業内教育について理解し、実践できる態勢をつくる。 受講生それぞれのキャリアをつうじて、企業内教育に携わるためのマインドを醸成する。		◎		
生涯学習社会論 Z231-271-04	持続可能な社会の発展と生涯学習	1.生涯学習社会の背景について理解する。 2.日本の生涯学習政策の問題点について把握する。 3.持続可能な生涯学習社会の構築に向けて自分なりの考えを持つ。		◎		
社会心理学 Z331-281-02	豊かな社会生活を送ろう	日常生活の場面面で生じる心理や行動について、社会心理学の視点から理解して、考え、そして解決できるスキルを取得して豊かな社会生活が送れるようになる。	◎			○
言語聴覚障害総論 Z131-591-02	言語聴覚療法とは何かを「知る」	ことばの起源、コミュニケーション手段としてのことばの位置づけを考える基本的な知識を得る。 言語聴覚障害の学問としての歴史、言語聴覚士法、言語聴覚士の役割と関連職種、業務と関わりのある周辺の諸事情について情報を得る。 言語聴覚障害そのものを学ぶとともに、言語聴覚障害者を取り巻く環境の様々な問題点にも触れ、支援する立場でどのような関わりができるかを考える。	◎			
口腔機能論 (臨床歯科医学を含む) Z131-571-01	口腔の機能、歯・歯周組織の構造・機能・疾患について理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ。	1.歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能について知り、説明できるようになる。 2.歯、歯周組織に発生する疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。 3.咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。	◎			
遺伝・画像診断学 Z231-522-01	主として、脳の目で見える画像の見方、面白さを学修	脳の画像情報あるいは遺伝情報から、その病態生理を把握し、診断を行うことができる。	◎			
耳鼻咽喉学 Z331-565-01	言語聴覚士を目指す人のための耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科ならびに頭頸部外科領域の解剖、生理、病態、疾患を理解する。	◎			
臨床神経学 Z231-522-02	神経解剖を前提に、その病気を理解する	構音障害、嚥下障害、失語症、認知障害の病態生理を学び、これらの障害をきたす疾患の病因、症状、治療、リハビリテーションを体系的に説明できる。	◎			○

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
形成外科学 Z231-567-01	口腔・顎・顔面・頭部への形成外科的アプローチについて理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ	1.皮膚の解剖と生理および創傷治癒機転について知り、説明できるようになる。 2.頭部、顔面の損傷、先天異常、症候群について知り、説明できるようになる。 3.基本的な形成外科的治療について知り、説明できるようになる。	◎			
口腔外科学 Z231-576-01	口腔の機能、口腔外科領域の疾患を理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ。	1.口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経に発生する疾患、治療法などについて知り、説明できるようになる。 2.言語、摂食、咀嚼障害と関係のある種々の口腔機能障害に対する評価、治療法について知り、説明できるようになる。	◎			
音声・言語・聴覚医学 (神経系の構造、機能及び病態を含む) Z231-513-01	聴器・喉頭・構音器官・呼吸器の解剖生理学について理解し、言語聴覚士としての診査・治療における役割を学ぶ。	1.耳の構造や生理的機能が明確に説明できる。 2.発声・発語に関わる器官である鼻咽腔・喉頭の構造や生理的機能についても説明できる。	◎			
音声・言語・聴覚系神経医学 Z231-513-02	3次元的に脳の構造、さらに機能へのつながりを修得する。	ニューロンの機構、中枢神経系の構造・機能、発話と聴覚の神経機構、脳神経の構造・機能を学び、これらの病態生理を体系的に説明できる。	◎			
臨床心理学 Z231-283-01	主として心理・行動面の障害の治療・援助、およびこれらの障害の予防、さらに人々の心理・行動面のより健全な向上を図ることをめざす。	1.さまざまな状況における心理的危機を推察できる 2.さまざまな不適応に関する心の仕組みを理解できる 3.心理アセスメント、心理療法の基本的な考え方や技法を理解できる	◎			
心理測定法 Z331-285-02	精神物理学的測定法、尺度構成法、テスト理論、調査法、統計法とデータ解析法に大別し、言語聴覚士の国家試験に必要な知識の獲得、および実践的な知識の習得を目指す。	心理測定の対象や方法、その後の統計について理解し、国家試験レベルの問題を解答できるようになる。	◎			
音声学総論・各論 Z231-136-02	音声学の体系的・理論習得と音の聴取・識別・表記、発音の実践的習得	音声について、基礎から発展的に学習する。	◎			
言語発達学 Z231-276-01	正常な言語発達を学習し、言語発達障害とその支援を理解する基礎を形成する。	言語発達理論を理解する 言語発達の指標を頭に入れる 子どもの発達の程度を評価する視点を身に付ける	◎			
音響学・聴覚心理学 Z231-513-03	言語聴覚に欠かせない「音」についての基礎を学ぶ	1.音についての基礎的な概念を理解し、よく用いられる物理量の初歩的な計算ができる。 2.音響分野で用いられるデシベル (dB) について、その定義や用いられ方を、実践的に習得する。 3.音の周波数成分 (スペクトル) について理解し、音の種類や音声における特徴を習得する。 4.聴覚に対する音の特性を理解する。 5.音声、特に母音の生成メカニズムを理解し、各音素についてスペクトログラムでの特徴を習得する。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
言語聴覚障害診断学 Z231-513-04	総合的な応用言語聴覚科学論	言語聴覚障害を評価し、診断し、その背景にある病態生理を説明できる。	◎			
失語症Ⅰ Z231-512-01	失語の基礎の基礎	言語モダリティー（話す、聞く、読む、書く）別の言語情報の脳内伝達経路を学び、これらの障害によって起こる失語型・純粋型の症候と病巣との関連を統合的に説明、図示できる。	◎			
失語症Ⅱ Z331-512-02	失語症候群の評価と治療の実際	失語症の障害構造に即した評価とリハビリテーションについて理解する。 言語聴覚士として必要な失語症に関する臨床技能を習得する。	◎	○	○	
高次脳機能障害学 Z331-512-03	言語聴覚嚥下領域において、最も難解な分野に挑む目に見えにくい障害への対応。	言語・行為・対象認知・記憶・注意・実行・情動の高次神経情報の脳内伝達経路を学び、これらの障害によって起こる失語・失行・失認・記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害の症候と病巣との関連を統合的に説明できる。	◎			
言語発達障害学Ⅰ Z231-276-02	言語発達との流れを理解しながら本障害学を身に付ける	言語発達障害領域の全体像を把握する。 精神発達障害児者、広汎性発達障害児者を理解する。 評価法を理解し、その技術を習得する。	◎			
言語発達障害学Ⅱ Z331-276-03	ASDとADHDのある子どもの言語臨床を軸に、アセスメントと支援のあり方を考える。	1.言語発達障害のある子どもが示す症状の特異性を、定型発達の差異から説明することができる。 2.子ども自身の発達や育成環境との関係の中で生み出される困難さについて説明できる。 3.どのようにアセスメントを行い、それをどのように支援に活かすのか、その基本的視点を説明できる。 4.各種指導方法の基本的考え方や指導の進め方について、その概略を説明できる。	◎			
脳性麻痺・学習障害論 Z331-276-04	小児神経学と発達性高次脳機能障害学を修める	言語発達障害を運動・情動・社会性・言語・認知・思考の発達性高次脳機能障害として説明できる。	◎			
発声発語障害学Ⅰ （音声障害） Z331-513-05	Dysarthria(運動障害性構音障害・麻痺性構音障害)を含む音声障害の理解と音声治療	これまで学んできた発声器官の解剖、生理、疾病学的知識および音響音声学の知識をもとに、言語聴覚学的観点から発声機構（発声の仕組みとその調節）について説明できる。	◎			
発声発語障害学Ⅱ （機能性構音障害総論・各論） Z231-513-06	機能性構音障害障害像から実際の技術を理解する	構音障害全体の中で機能性構音障害の位置づけを確認し、そこから機能性構音障害の本質を理解する。	◎			
発声発語障害学Ⅲ （器質性構音障害総論・各論） Z331-513-07	器質性構音障害障害像から実際の技術を理解する	器質性構音障害の原因となる疾患の種類と、それぞれの疾患の特徴、構音に及ぼす影響についての知識を得ることにより、構音障害の発生機序についての理解を深める。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
発声発語障害学Ⅳ (運動障害性構音障害総論・各論) Z331-513-08	運動障害性構音障害に関する基礎から臨床実践までの包括的知識の習得と、適切な評価や症状分析力の獲得	運動障害性構音障害のタイプと臨床症状の特徴、各種検査技法とその評価方法、治療方法論について実践的に学習することで、実際の臨床において的確な診断・治療が施行できる。	◎			
嚥下障害総論・各論 Z331-513-09	摂食嚥下の基本を学び、応用学習に備える	摂食・嚥下障害児者のリハビリテーションを理解し、技術を身に付ける。	◎			
吃音 Z331-513-10	言語聴覚士が吃音者に対してどのような治療、援助ができるかについて学ぶ	1. 吃音についての基礎的な知識(定義、発生メカニズム、症状)について知り、説明できる。 2. 吃音と診断するための諸検査・評価法および基本的な治療法について知り、説明できる。 3. 吃音の問題に対するセルフヘルプグループの活動の意義について知り、説明できる。	◎			
聴覚障害・視覚聴覚二重障害 (小児聴覚障害, 成人聴覚障害を含む) Z331-565-02	訓練内容や対象者のニーズ・実態を中心に	1) 小児聴覚障害のハビリテーションについて学び、発達、検査と評価、指導訓練について理解する。 2) 成人聴覚障害の種類と特性、検査と評価、指導・訓練について理解する。 3) 視覚聴覚二重障害の種類と特性、評価と訓練について理解する。	◎			
聴力検査 Z231-565-03	検査のやり方や被検査者の誘導法などを会得する	聴力検査の使用方法を習得する。 聴力検査選択の実際を学ぶ。	◎			
補聴器 Z331-565-04	聴覚障害児者の評価とリハビリテーション	補聴器と聴覚障害児者への適応を理解する。	◎			
人工内耳 Z331-565-05	人工内耳の基礎と実際	人工内耳と関連する聴覚障害の包括的理解を得る。	◎			
言語聴覚学基礎演習 Z232-513-11	言語聴覚療法の実際	障害者心理、家族心理を理解し、言語聴覚療法学の応用を理解する。	◎			
言語聴覚学総合演習 Z232-513-12	臨床で求められる判断力や解決力を養う	言語聴覚障害学の臨床の実際を理解する。 基礎知識の臨床応用を体験し、言語聴覚士になりたい気持ちを高める。	◎			
言語機能評価学演習 Z332-513-13	成人コミュニケーション障害の評価と治療	臨床実習に必要な専門知識の補充と熟成を目指す。 医療系専門職員としての基礎知識と基本的態度を学習する。	◎			
心理診断学演習 Z332-283-02	摂食・嚥下障害リハビリテーションの実際	摂食・嚥下リハビリテーションの実際を学ぶ。 実践的な知識や技能を習得する。	◎			
言語聴覚心理評価学 Z331-513-14	言語聴覚嚥下科学の基礎論の学習	言語聴覚科学、医学、心理学の基礎的専門用語を用い、言語聴覚障害の病態を評価できる。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
特殊演習 1 a (コミュニケーション障害学) Z332-513-15	コミュニケーション障害全般に関する包括的演習	これまでに習得した専門的知識と技能の総復習と、専門論文の読み方、報告書の書き方、症例報告の方法などを学習することにより、病院・施設等での臨床実習に対応できる。	◎	○		○
特殊演習 1 b (コミュニケーション障害学) Z332-513-16	コミュニケーション障害全般に関する包括的演習	これまでに習得した専門的知識と技能の総復習と、専門論文の読み方、報告書の書き方、症例報告の方法などを学習することにより、病院・施設等での臨床実習に対応できる。	◎	○		○
特殊演習 2 a (言語聴覚嚥下障害学) Z332-513-17	言語聴覚障害全般に関する包括的演習	言語聴覚臨床における必須知識の習得と実践的活用を目指す。 病院の医師や看護師とのカンファレンスにおいて、根拠のある病態説明とリハビリテーション方略の説明ができる。	◎			○
特殊演習 2 b (言語聴覚嚥下障害学) Z332-513-18	言語聴覚障害全般に関する包括的演習	言語聴覚療法の現場で求められる実践力の向上。 基本的病態学の整理と応用的リハビリテーション技法の習得。	◎	○		○
特殊演習 3 a (認知神経心理学) Z232-513-19	言語聴覚障害全般に関する基礎演習	言語聴覚臨床における必須の基礎的知識の習得。 失語症およびその関連症候の理解と分析力を高める。	◎			○
特殊演習 3 b (認知神経心理学) Z332-513-20	言語聴覚障害全般に関する実践的演習	言語聴覚療法の現場で求められる実践力と応用力の向上。 模擬臨床カンファレンスでの発表を通して、根拠のある病態説明とリハビリテーション・ストラテジーの提案ができる。	◎	○	○	○
健康科学総合演習 I Z322-842-01	健康科学の学びを高める	プレゼンテーションや論文作成の際に必要な基本的知識と技術を習得する。	◎	○	○	
健康科学総合演習 II Z322-842-02	健康科学の学びを探究する	・健康科学に関係する諸問題への対策を考えることができる。 ・社会人としての教養や態度を身に付ける。	◎	○	○	
専門セミナー Z422-842-03	健康科学の学びの集大成	・健康科学が包含する幅広い専門分野の中から、ゼミ指導教員の専門性に基づいて学びを深める。 ・卒業論文を執筆するための基本的なスキルを習得する。 ・臨床や教育の現場で必要な知識、技術、態度、倫理観を習得する。	◎	○	○	◎
卒業論文 Z426-845-01	卒業論文作成	・健康科学に関する課題を設定し、卒業論文としてまとめる。 ・文献考察、実験、研究、論文執筆等の基本的なスキルを習得する。	◎	○		○
臨床実習 Z427-851-02	臨床の現場で12週間の実習を行う	臨床家に必要な基礎知識を体得し、倫理を理解する。	◎	○	○	○

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
健康キャリア論 Z231-861-01	社会的な健康問題に対して、自ら考え行動するために、スポーツに関する職業に関する知識やキャリア形成の方法、スポーツを通じて獲得できるライフスキルについて学んでいく。	自身のキャリアをプランニングできること、幅広い職業選択をすることができる。 また講義を通して、社会人としての態度・志向性についても養成し、社会の一員として協働できるようになることも目標とする。	◎	○		◎
ボランティア演習 Z138-852-03	学外での実践的なボランティア活動	・社会貢献に対する意識や倫理観を醸成する ・実践的な活動を通して、コミュニケーション能力や協調性を身につける ・実践を経験することによって、健康科学に関する探究心を高める		○	◎	○
インターンシップ Z238-861-02	企業等で体験する仕事の実際	・就業を体験し、就業意識を高める ・業種・業界知識や職場・職種の知識を得る ・就職活動に備えて自身の適正を考える ・社会人としての基本的なマナーや行動力を身につける		○	◎	
人格心理学 Z231-283-03	人格の理解を事例を通し理解を深める	人格心理学の基礎を学ぶ。 人となり（人格）について洞察力が深まる。	◎			
心理学研究法 Z231-285-03	心理学における実験や調査のための方法的基礎	ひとのこころや行動を客観的な実験や調査によって測定したり査定したりするための方法的な基礎を学ぶ。	◎			
海外健康・スポーツ論 Z331-801-01	世界には紛争、犯罪、貧困、人権侵害など、様々な課題があり、これらの早急な解決が求められていることから、まず、国際協力についての基本的な知識を身に付け、国際社会に貢献するための方策を学ぶ。また国際協力における保健衛生分野の役割について、その考え方を学ぶ。様々な保健衛生を通じた国際協力の具体的事例をとりあげ、その実施方法や体制、評価について考えていく。これらを通して、保健衛生の国際協力における豊かな可能性について学ぶ。	国際社会にスポーツを通して貢献できる人材の育成をする。	○	○	○	○
心身科学特論 Z331-594-09	「心」、「身体」、「食」と心身の健康	・「心」、「身体」、「食」と健康との関連を理解する。 ・心理学、健康科学、栄養学等の視点から、人間の思考や行動を考えることができる。 ・心身の健康の重要性を説明できる。	◎			
手話 Z131-276-05	ろう・難聴者のコミュニケーション方法の一つである手話を通して、表現の大切さを学びながら、ろう者のろう文化・ろう社会の理解を深めていく。	ろう者や難聴者について正しく理解し、適切なコミュニケーション手段を身につける。	◎			
手話演習 Z232-276-06	ろう・難聴者のコミュニケーション方法の一つである手話を学ぶ。 ろう・難聴者の問題を取り上げたドキュメンタリー鑑賞を通して、歴史的背景や様々な年代のろう・難聴者のことを知る。	ろう・難聴者と会話をしようとする態度をもち、自己紹介や簡単な会話ができる。	◎			

心身科学部健康科学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。
基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ （心理学実験Ⅰ・Ⅱ） Y112-841-02 Y112-841-03	様々な心理現象を解明するための実験、調査、テスト等の手法を幅広い分野に関して具体的に学んでいくこの基礎実験演習を通して、科学としての心理学の特徴を理解し、その研究法の習得を目指す。	・心理学を研究するための基礎的な方法を学び、その技術を自ら実施することができる。 ・実験結果を、科学的報告書の形式に則ったレポートにまとめることができる。	◎			
認知心理学 b Y231-284-02	認知（cognition）とは知覚、注意、記憶、情動など、外界情報の認識と利用に関する心の機能である。本講義ではこれらの機能を理解するとともに、隣接諸科学との関連性について把握することを目標とする。	・外界情報を認識するための情報処理装置としてのヒトの認知機能を理解できる。 ・他の心理学や隣接諸科学との関連性を理解できる。	◎			
発達心理学 b Y231-282-02	人の発達とは何かを学習し、対人支援等の基礎を形成する。	発達段階および各発達段階における発達課題を理解する。障害があっても高齢者になっても発達があるという視点を形成する。	◎			

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項

○・・・DP達成のために、重要な事項

△・・・DP達成のために、望ましい事項

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
医療福祉概論 X431-262-01	医療・福祉・介護・保健分野における役割と機能について学ぶ。	医療、福祉・介護、保健制度等の概要を理解し、社会全体の動向との関連を読みとることができるようになる。	◎		△		
健康心理学 X231-283-02	人間の心と体の健康を維持、増進、予防し、疾病を誘発する危険因子を発見し、それを防除するにはどうすべきかを学ぶ。	健康心理学の基礎的知識およびその応用領域を理解し、説明できるようになる。 対象者の心理状態を把握し、適切に対応する知識・技術・コミュニケーション力を取得する。	○				
公衆衛生学 X311-583-03	公衆衛生学に関する基本的知識を得る。	各種保健統計調査や公衆衛生活動、生活環境により引き起される健康障害、社会保障制度などについて理解できるようになる。	◎	△		○	
公衆衛生学実習 X433-582-04	データ収集および統計処理、環境衛生測定等の手順や、得られた結果の考え方を学ぶ。	環境衛生に関する測定や疫学指標を用いた健康評価等を行い、考察することができるようになる。			○	◎	
健康管理概論 X111-583-05	生活習慣病の基本的項目および健康管理の方法等を理解する。	生活習慣病の原因、病態、治療、予防法、健康の概念・評価、健康増進の方法を個人および社会レベルで理解できるようになる。	△	○		◎	
人体構造学 X111-481-06	人体全体の構造について知識を深めていく	正常な人体の個体としての細胞・遺伝子レベルから組織・器官レベルまで、理解する。	○			△	
生体機能学 X111-594-07	正常な人体の機能について学ぶ	生体機能システムの相互関係を理解する	◎			△	
人体構造機能学実験 X213-481-08	人体形態学の学びをもとに、顕微鏡を用いて組織標本を観察し、組織学の知識を深める。	人体の構造成分を組織学を通して理解し、病態の理解にも発展させる足掛かりとする。 ラットの解剖により、哺乳類に共通した形態の知識を深める。 生体における血圧、脈拍、心拍数、呼吸数などが変化する意義を理解する	○				
生化学総論 X111-594-09	ヒトの細胞の構造要素と構造を学び、摂取した栄養素が体内に入り細胞でどのように代謝、変換され利用させるのか理解し、個体の恒常性(ホメオスタシス)のシステムを学ぶ。	生物の基本的な単位(細胞)の構造要素である糖、脂質、アミノ酸・タンパク質の構造と機能、代謝経路について理解する。 生体成分の代謝過程と栄養素との関係を理解する。 個体の恒常性を維持している仕組みを理解する。	○				
生化学各論 X211-594-10	栄養学を理解するためには、ヒトの細胞の成り立ち、栄養素の代謝、およびその働きについての理解が必須である。本講義では栄養学の基礎としての生化学に主眼をおき、そのシステムを理解する。	管理栄養士に必要な栄養素の吸収、代謝、分解について理解する。ヒト生体における栄養素の機能について、分子、細胞、組織レベルで理解し、栄養指導の基礎知識を得る。	◎	○		◎	
生化学基礎実験 X213-594-11	実験の原理や方法論を学び、結果の解析をととして、生体成分の定性、定量分析、および生体反応に関連した酵素反応について、より深く理解できるようになることを目的とする。	安全に実験を行うための知識と注意事項を学び、適切に実験が行えるようになる。結果の意味について意欲的に調査探求し、レポートの作成ができるようになる。	○				

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
生化学応用実験 X233-594-12	生体から構成成分を分離、精製し、基礎実験で学んだ定性、定量法がどのように利用されるのか理解する。また生化学的反応にもとづいた一般的な臨床検査の原理について学ぶ。	生体および食品の成分を同定・定量分析し、分析結果を説明できるようになる。	○				
病理学 X231-492-13	病理学の総論を学ぶ	栄養士として臨床に役立つ内容に重点を置き、疾病に対しよりよく理解する。	◎			△	○
薬理概論 X331-474-14	医薬品や機能性を有する食品の生体に対する効果、また食品が医薬品の効果におよぼす影響について学習する。	講義で学んだ薬物の作用機構や安全な利用法、またある種の食品との併用による影響について、その機構を含め考察し、説明できることを到達目標とする。	△			△	
生活習慣病論 X231-594-15	代表的な生活習慣病をとりあげて、原因、特徴、治療について学び、病気の予防ができるようにする。	生活習慣病の原因を理解し、その予防策が実施できる。	◎				
健康スポーツ医学 X131-592-16	老化やそのメカニズム、高齢者の疾患について理解し、健康を維持するための運動と食生活の役割を理解する	超高齢化社会における運動と食生活の役割を理解する	◎				
医科学Ⅰ X231-594-17	疾患別病態生理を学ぶ	代謝性疾患、内分泌疾患、循環器系疾患など生活習慣病について学ぶ	◎			○	△
医科学Ⅱ X331-531-18	疾患別病態生理を学ぶ	消化管疾患について学ぶ	◎			○	△
医科学Ⅲ X431-503-19	疾患別病態生理を学ぶ	脳神経系疾患、呼吸器系疾患、腎臓疾患、血液疾患、免疫・アレルギー系疾患、骨代謝疾患について学ぶ	◎			○	△
病原微生物学 X231-495-20	食中毒のみならず、主要な感染症を理解するための基本的な知識の習得をねらいとしている。	微生物の生態や特性を把握し、さらに食中毒や感染症などの疾病に係わる現象を科学的に理解するための基礎知識を習得する。加えて衛生概念や滅菌・消毒の概念などについても理解する。	○		△		
食品成分学 X111-388-21	栄養素や機能性成分を含む様々な食品に含まれる植物性食品、動物性食品素材を対象に、調理や加工、配合などの過程における成分の特性、変化を総合的に学ぶ。	管理栄養士をはじめ食品関連分野で必須な基礎と研究方法を身につけることができる。日常利用している食品成分の特性、変化を総合的な視野から考察する力を養うことができる。	◎				
食品基礎分析実験法 X213-388-22	食品成分の分析法に関する基礎を理解する	食品成分の分析法の知識をもとに実践できるようにする。	○	◎	◎	○	
食品機能評価法 X111-388-23	食品機能評価法の基礎、食品の三次機能、いわゆる生体調節機能として、抗酸化能をはじめ、がんや各種血管障害、肥満、アレルギー等に対する予防や軽減化などに関わる食品成分についての評価法を学ぶ。	食品成分の分析法や機能の評価法について、解説し説明できる。			◎		
食品応用分析実験法 X333-388-24	食品の機能性・食品成分の生体における作用に関する基礎を理解する。	食品の機能性・食品の生体における作用を調べる実験法を学ぶ	○	◎	◎	○	

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
栄養学実験 X213-594-34	基礎栄養学の講義で学習した内容について、みずから手を動かして、体験することによって、より理解を深める。栄養素について定性実験および定量実験を行う。	栄養学に携わるものとして必須である定量実験の基礎的手法について習熟し、実験ノートを作成できるようになる。	○	◎		○	
食品機能化学 X231-388-25	食品の1次～3次機能(栄養機能、嗜好機能、生態調節機能)に関わる成分について、化学的見地から学ぶ。	主要な食品成分の栄養機能、嗜好機能、生態調節機能について、解説し説明できるようになる。		◎			
食品健康科学論 X331-388-26	食と健康を科学的根拠に基づいて考察する	食と健康を食品成分との相互作用の観点から理解を深める	○	◎	◎	○	
調理学 X111-594-27	多様な物質が調理過程で科学的、物理的、組織的に変化することを理解して、好ましい食べ物をつくりだすための調理条件を身につけるとともに実践時に応用できる力を養うことを目的とする。	調理プロセス全般を科学的に理解し、実践時に応用できるようになる。	○	◎	○		
調理科学実験 X113-594-28	調理の過程で起こる現象を実験を通して、科学的・物理的・生物学的・数学的などさまざまな視点から観察し、科学的思考能力を養い、講義では理解しにくい調理学の理論をより深く理解する。	実験を通して、調理過程における物質の変化を科学的に理解させ、学生の理解力、観察力および科学的思考を養うことを目標とする。	○	◎			
基礎調理実習 X113-594-29	調理理論を調理実習により実践し、食品の調理特性の確認と調理技術とを関連づける。	基礎となるひとつひとつの調理操作をしっかりと身につけるとともに、食材の選び方・扱い方、栄養・機能性成分の生かし方、調理のコツについて学び、応用する実践力を養う。	○	◎			
応用調理実習 X113-594-30	基本となる調理を、確実に自分のものとするため応用調理実習を体得する。	食材とその栄養的価値、調理法によるその違いなどを考慮した献立や応用献立へ展開できるようになる。	○	◎			
食品安全管理学 X211-388-31	食品安全に関する基礎を理解する	食品を安全に取り扱う専門知識を身に付け、実践に結び付けられるようにする。	○	◎	◎	○	
食品安全学実験 X213-388-32	実験を通じて食品衛生法をはじめとする衛生規範を学び、食品衛生の問題点を把握し対処法を理解する。	食品の安全性に関する基礎知識と実験手法の習得を目的とする。	○	◎	◎		
基礎栄養学 X111-594-33	栄養素とは何か、その構造、機能について基礎的な理解を得る。 栄養素の欠乏、過剰により引き起こされる疾患について知識を得る。	栄養学について基礎的な学習をすることで、管理栄養士としての栄養および食事指導、献立作成の理論的根拠を説明できるようになる。	◎	◎	○	◎	◎
栄養生理学 X231-594-35	食・栄養に関連の深い体の生理や健康の概念を理解する	食生活と体の生理がどんなふうに関連しあっているかを考えることができる。	○			○	
応用栄養学 X211-594-36	個人や集団の栄養を適切に管理(栄養管理)する考え方を学習。	ライフステージや特殊環境における個人や集団の身体状況・栄養状態を食事摂取基準2020年版を活用して正しくアセスメントできる。	◎	○	○	△	◎
母子栄養学 X211-594-37	妊婦・授乳婦、小児の栄養管理とケアを学ぶ。	母子の身体特性、栄養状態を把握し、対象に応じた栄養管理、ケアについて説明できる。	○	△	○	○	○

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
加齢栄養学 X231-594-38	高齢者の生理機能、免疫機能、栄養代謝の変化などの特徴と栄養上の問題点・疾病について理解した上で、栄養ケアマネジメントの理論と方法を学ぶ。	加齢に伴う生理機能の変化を理解し、高齢者の栄養上の問題・疾病に即した栄養ケアマネジメントができるようになる。	○	○	○	◎	◎
スポーツ栄養学 X331-594-39	スポーツのパフォーマンスに貢献する栄養学と健康に役立つ栄養学を学ぶ	健康とスポーツの競技力向上に必要な栄養学的知識を習得し、自分自身で「何を食べる・どのように食べるか」のアスリートの、健康的な食事管理ができるようになることを目標とする。	◎				
応用栄養学実習 X313-594-40	ライフステージ・ライフスタイル別に適応した栄養マネジメントを学ぶ。	ライフステージ・ライフスタイルにおける人体の構造、身体機能の変化に伴う栄養アセスメント（栄養状態に関連したパラメータの評価・判定）の考え方や方法に基づき、栄養摂取量、モニタリングなど栄養マネジメントの展開ができるようになる。	◎	◎			◎
栄養教育論 X111-594-41	栄養教育の意義と特性を理解し、栄養教育の方法を学ぶ。	栄養教育に関わる理論と教育方法を説明できる。	○	△	○	△	○
栄養教育各論 X311-594-42	ライフサイクル、ライフステージ別の栄養教育の方法を学ぶ。	対象別の栄養教育の実践のための理論と方法が説明できる。	○	△	○	○	○
栄養教育実習 X213-594-43	栄養教育技法として、栄養アセスメント、栄養教育計画、集団指導、個別指導の技術を習得する。	栄養教育の意義と特性を理解し、個人および集団を対象とした栄養教育を行うことができる。	○	◎	○	△	◎
栄養カウンセリング論 X231-594-44	栄養カウンセリングを体験実習することで、ガイダンス(指導)、コーチング、カウンセリング法の違いと効果をわきまえて、クライアントの状況に合わせた視点技術の展開と健康教育を学ぶ。	栄養カウンセリングの意義と特性、技法について理解し、説明できる。栄養カウンセリングの具体的な活用方法について説明できる。個人を対象とした栄養カウンセリングの基本について理解し、実践できる。グループカウンセリングの意義と特性、技法について理解し、説明できる。	○				
健康行動科学 X231-594-46	健康や病気をめぐる人間行動について行動科学的に学ぶ。	健康・栄養に関わる行動科学について理解し、説明できる。行動科学の具体的な活用方法を理解できる。行動変容を目的とした技法の基本について理解し、実践できる。問題解決をはかる技法について理解し、実践できる。	○	○			
健康・栄養情報演習 X232-594-45	管理栄養士に必要な栄養情報処理技術を習得する。	特定集団の栄養・食生活データの集計・解析を行い、その課題解決のための方法を説明できる。	○	○	○	△	△
臨床栄養学各論 X211-594-48	栄養状態を的確に評価・判定し、それに見合った栄養補給方法を理解する。	データをもちいて、個人やある特定集団の栄養状態を総合的に評価・判定できる。				◎	○
臨床栄養学総論 X211-594-47	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理の基礎を理解する	栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントを考えることができる。				◎	○
分子栄養学 X331-594-49	近年の分子生物学の進歩は目覚ましく、栄養学においてもその知識取得は必須である。 栄養素による細胞内シグナル伝達、遺伝子発現の制御に関する最新の知識を得る。	栄養素による細胞内シグナル伝達、遺伝子発現の制御のメカニズム、メタボリックシンドローム、フレイル発症への栄養素の関与について上記の知識を体系的に身につける。	◎	◎	○	◎	◎

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
栄養アセスメント論 X331-594-50	栄養状態を的確に評価・判定し、効果的な栄養補給を理解する。	「個」を対象に栄養管理計画を立て、それについて説明できる。				◎	◎
栄養ケアマネジメント論 X331-594-51	対象者の臨床診査、臨床検査、身体計測、食事摂取調査、環境要因などにより総合的に栄養状態を評価・判定し、問題点の背景・関連要因について考察し栄養ケア計画を立案・実施することについて学ぶ。	栄養ケアマネジメントのプラン作成ができるようになる。	◎	◎	○	◎	◎
臨床栄養学実習 X313-594-52	栄養アセスメントの指標を理解し疾患別に適した栄養量を策定し、献立作成・調理を行う。	栄養療法のプラン作成ができるようになる。	◎	◎	○	◎	◎
臨床栄養管理実験 X333-594-53	正しい測定法、測定値の意味および病態との関係を理解する。	正しい計測・検査ができる。				◎	○
介護概論 X431-262-54	「高齢者」に焦点をあて、身体的、精神的、社会的側面から加齢に伴う変化、高齢者に対する制度政策について学ぶ。	社会保障制度としての「介護保険法」の理念並びに仕組みを学び、高齢者介護サービス提供についての現状と課題を理解する。	○				
口腔機能論 X331-578-55	口腔の機能、疾患について理解し、管理栄養士としての治療における役割を学ぶ。	口腔各部の構造、機能、疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。咀嚼、摂食・嚥下と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。	◎				
運動療法論 X331-592-56	健康づくりについて、栄養面からだけでなく運動面からも学ぶ。	健康づくりと運動の関係性について学び運動に関する知識を理解し、様々な視点から健康づくりを捉えることのできる論理的思考力を修得する。	○				
公衆栄養学 X311-594-57	公衆栄養学の概念とその重要性を理解する。	歴史上の栄養疫学の業績、わが国の栄養政策・活動を説明でき、栄養疫学の指標と方法を論じることができる。現在の健康・栄養問題、関連要因の分析ができ、公衆栄養学の概念を説明できる。	◎	◎	◎	○	○
公衆栄養活動論 X331-594-58	公衆栄養政策への理解および公衆栄養活動を効果的に進めるための方法とスキルを習得する。	公衆栄養活動は、生態系保全・地域づくり・健康増進・疾病予防等多様な目的を持つ地域社会の組織的な努力を通じて行われる活動であることを理解でき、オーガナイザーとして必要な能力を身に着ける。	○	○	◎	◎	◎
環境健康医学 X331-583-59	自然環境や社会環境が健康に及ぼす影響を知り、適切な対処について学ぶ。	環境汚染や公害などの社会環境と健康との関係や影響について理解し、ヘルスプランを考察することができるようになる。	○		◎		
公衆栄養学実習 X433-594-60	公衆栄養学および公衆栄養活動論で学んだヘルスプロモーションの理論（プリシード・プロシード）を活用し、地域で健康・栄養改善を進めるプログラムを計画・実践・評価する。	グループ討議、地域栄養計画立案に必要な情報収集、優先的な課題の把握・診断ができる。課題解決のための効果的なプログラムの計画ができ、運営実施・評価ができる。	◎	◎	◎	◎	◎

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
食事調査演習 X232-594-61	各種食事調査法の理解と秤量食事記録法による他者の3日間食事調査を体験する。栄養素量の計算後は応用栄養学で学んだスキルの実践。	食事調査法の特徴が説明でき、食事内容の面接聞き取り(コミュニケーション)・栄養素等摂取量の算出スキルを身に着ける。その後は応用栄養学で身に着けた能力を実践し適切な栄養指導へと応用できる。	○	○	△	○	○
給食経営管理論 X211-594-62	給食施設における管理栄養士の役割を理解し、給食の運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行うための基本的な考え方とその具体的な方法について学ぶ。	特定給食施設の運営に必要な制度、栄養管理・衛生管理に必要な知識を理解し説明できるようになる	○	◎	◎		
給食経営管理基礎実習 X313-594-63	150食分の献立作成から発注・大量調理・検食・残食調査による評価にいたる一連を体験し、給食運営に関する方法、技術等を習得することを目的とする。	それぞれの役割を体験することにより給食経営管理の全体を理解する。	○	○			
給食経営管理応用実習 X313-594-64	大量調理の作業管理までを体験し理解する。HACCPの概念にそった衛生管理の実践を実践する。喫食者に対するアンケートの作成ならびに集計・解析を行い、調査結果を判読する能力を習得する。	管理栄養士が各職種、各作業領域に対してどのような役割を担っているか理解する。	○	○			
フードマーケティング論 X331-411-65	フードマーケティングの専門的知識を習得する	マーケティングの歴史的考察やその役割を理解し、マーケティングの展開についてその企業戦略と競争の観点から検討できるようになる。			○		
フードサービス論 X231-594-66	フードサービスについて多角的な視点から捉えることができる専門的知識の習得	外食産業におけるフードサービスについて説明できるようになる			○		
健康栄養学入門 X131-841-67	健康栄養学科で学ぶ専門分野の基礎的知識と学習方法について理解する	専門分野を横断し、個人や集団を対象とした栄養評価および管理が行える総合的な能力を養うことを目指す	○			○	
健康管理総合演習 X432-841-68	最近増加しつつあるメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、高脂血症など生活習慣病の基礎治療である食事療法・運動療法について本学歯学部付属病院外来患者を対象とし、問診や検査結果に基づき、管理栄養士として食事療法・運動療法指導の臨床栄養管理演習を行う。これまでの学習から、患者に寄り添い患者から学ぶ能動的な自立した学習を通して、管理栄養士としてのコミュニケーション技術、栄養指導・臨床栄養管理技術を養う。	①管理栄養士として、患者とのラ・ボーラを築くことができる。 ②糖尿病等患者に対する個別指導ができる。 ③患者・医師・チーム間で良好なコミュニケーションが構築できる。 ④最新の高いエビデンスのある情報が収集でき、活用できる。	○	○	○	◎	○
管理栄養士総合基礎演習 X432-841-69	チーム医療の一員となりうる臨床志向の管理栄養士養成を目指して総合的な演習を行う。それぞれの領域を横断して栄養評価や管理を行う能力を養うために必要とされる基礎的な知識と技能について、演習を通して系統的に学ぶ。	管理栄養士として必要な知識と技術を系統的に学ぶ。	◎	◎	◎	○	○
管理栄養士総合応用・臨床演習 X432-842-70	専門分野で学習した内容を統括して、病院、福祉、介護、産業、学校、地域保険などの職域で栄養アセスメント、栄養ケアマネジメント、栄養教育を行うことができる実践力を養うための演習をオムニバス形式で行い、専門分野を横断した総合的な能力を高めることを目的とする。	管理栄養士として必要な応用・臨床の知識と技術を総合的に学ぶ。	◎	◎	◎	○	○

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる
臨地実習事前事後演習 X312-842-71	臨地実習の意義を理解し、学習効果の高い学外実習を行うために、栄養士・管理栄養士の業務について、事業所給食施設、病院、福祉施設などの施設別の実習準備と事後教育を実施する。	栄養士・管理栄養士の社会的な役割として自覚できるようにし、職務の体験を通して、専門的業務内容を総合的に理解し、説明できるようにする。	○	○	○	○	○
臨地実習Ⅰ (校外実習を含む) X313-851-72	栄養士・管理栄養士免許取得に必要な臨地実習として、集団給食施設において、給食経営管理および栄養改善上必要な指導に関する実務実習を行う。	集団給食施設における栄養士・管理栄養士の意義と業務について、専門知識の説明と実践ができるようになる。	○	◎	◎	○	○
臨地実習Ⅱ X333-851-73	管理栄養士免許取得に必要な臨地実習として、医療・福祉施設において2週間の栄養ケアマネジメントに関する実習を行う。	医療・福祉施設における実務実習を通して、栄養ケアマネジメントの実際について説明し、実践できる。	○	◎	◎	○	
臨地実習Ⅲ X333-851-85	管理栄養士免許取得に必要な臨地実習として、医療・福祉施設などにおける専門業務を深く学ぶことをめざして、臨地実習Ⅱに追加して1週間の実務実習を行う。	医療・福祉等の分野における管理栄養士の意義と業務について深く理解し、専門性の高い業務の知識および技術に関する説明と実践ができる。	○	◎	◎	○	○
健康栄養学特論 X431-842-74	学生各自が修得してきた専門基礎分野および専門応用分野の学問を進路に併せてさらに発展させ、学士力を高めることを目的として、専門分野別に最先端の知識と技術について総まとめを行う。	健康と栄養に関する基礎から応用に至る科学の総まとめを行う。	◎	◎	◎	○	○
管理栄養士海外研修 X233-852-75	国際的視野をもつ管理栄養士を育成するために、カリフォルニア大学デービス校 (University of California, Davis) において2週間の栄養プログラム (RD講義、専門英語授業、病院・福祉・集団給食・学校給食施設の見学実習) の研修を行う。	グローバルな視点で栄養・食生活の問題を捉えて思考し、英語でのコミュニケーションの幅が広がるようになる。	○	○	○		
心身科学特論 X331-594-77	心身科学部3学科の教員が、それぞれの専門の立場から、学生にとって有用な知識や最新の研究成果をわかりやすく紹介する。	「心」、「身体」、「食」と健康との関連を理解し、これらの視点から、人間の思考や行動を考え、心身の健康の重要性を説明できる。	○	○	△	○	
健康栄養総合演習 X312-842-78	各ゼミナールにおいて、各分野にかかわる調査・研究の方法について学ぶ。	検索した論文を読み、内容を説明することができ、論文作成に至るまでのプロセスを説明することができる。	○	○	○	◎	○
健康栄養専門セミナー X411-842-79	各ゼミナールにおいて、健康栄養総合演習で学習した内容の理解をさらに深め、より実践に基づいた方法を学ぶ。	検索した論文を読み、内容を説明することができ、論文作成に至るまでのプロセスを説明することができる。内容を理解し、判定・評価を適切に行うことができる。	○	○	○	◎	○
卒業研究 X336-845-76	各ゼミナールで設定したテーマに基づき、調査や実験を行い、卒業論文としてまとめ、成果を発表する。	講義や実験・実習で学んだ知識、技術を活かして適切に評価し、論理的にまとめることができる。	○	○	○	◎	
有機化学 X131-471-80	私たちの健康を食生活から考える専門家としての有機化学の基礎から応用までの修得。	栄養学、食品類、生化学の基礎としての有機化学を健康と栄養の面から理解させる。生活を科学的に分析し、より快適な食生活を送るにはどのような改善が必要かを認識できるようにする。	○	○	△		

心身科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			心身科学部健康栄養学科のディプロマポリシー（DP）				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている	② 栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を实践できる	③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる	④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる	⑤ 栄養ケアマネジメントを实践できる
分析化学 X131-772-81	私たちの健康を食生活の面から支える専門家としての食品成分分析に必要な知識を基礎から応用まで習得。	食品分析に必要な基礎的の化学知識や分析化学の原理と方法、物質質量や数値の取り扱いなどについて学び、学習した化学的知識や分析化学の基礎を食品化学や栄養学に活用できるようにする。	○	○	△		
管理栄養士セミナー X331-842-83	管理栄養士としての専門分野を結合して活用できる能力を育成するために、セミナー形式で学ぶ。	管理栄養士として必要な知識と技術を分野横断的に学ぶ。	◎	◎	◎	○	○

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項

○・・・DP達成のために、重要な事項

△・・・DP達成のために、望ましい事項